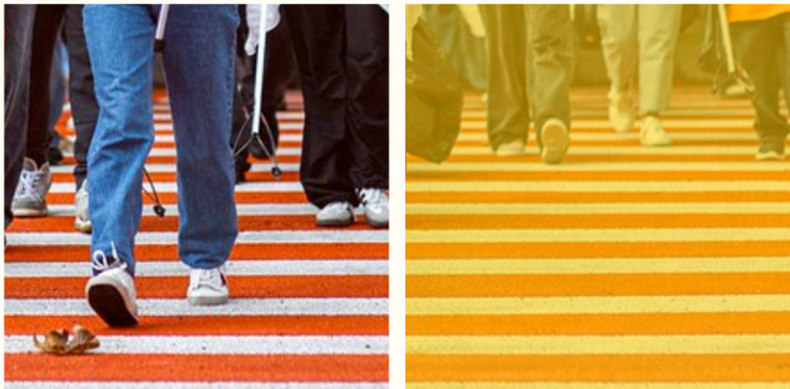
[日本語翻訳版]

Let's Do It World
Activity Report 2025

- 年次報告 -



Let's do it!

SAC ALIMENTAIRE

目次

Let’s Do It World 代表からのメッセージ	04
担当ディレクターからのメッセージ	06
Let’s Do It World 後援者とアンバサダー	11
ミッション・ビジョン・ヴァリュー	16
Let’s Do It World 戦略 2025 - 2030	17
私たちの歩み	22
インパクト	26
ネットワークとメンバーシップ	28
受賞歴	31
World Cleanup Day 2025 結果	34
World Cleanup Day 感動ストーリー	41
グローバルプロジェクトとキャンペーン	67
戦略的パートナーシップ	80
ファンディング	82
支援・協力パートナー	83

Let’s Do It World 代表からのメッセージ

Let’s Do It World 本部よりご挨拶

世界中の友人、パートナー、リーダー、そして変革を志すすべての皆さまへ。

一年を締めくくり、2026年という新たな可能性に向かうにあたって、まずは心からの深い感謝を申し上げます。

私たちは、211か国、1億3,900万人にのぼる人々が志を一つにして国境や政治によらず、「共にこの地球を慈しみ、守る力が私たちにはある」という、シンプルで深い信念によって結ばれたムーヴメントです。
私たちは、地域社会をまとめ、時に不可能と思われる課題に向き合うリーダーです。集団の力を信じるパートナー同士であり、共通の目的のもとに結束する時には非凡な力を発揮する、ごく普通の市民でもあります。

私たちは、単にイベントを企画・運営する組織ではありません。自らを一個人ではなく、全体を構成するかけがえのない一人となることを選んだ人同士の生きたネットワークです。
地球の健やかさと地域社会の幸福は切り離せないものであることを知っている人々の集まりです。環境の再生と人類の繁栄は、決して対立するものではなく、共に手を取り合って歩むものであることを、私たちは証明し続けています。

私たちは、目の前の課題がどれほど大きく複雑で困難なものであっても、決して解決をあきらめることのないようにするために存在しています。変革は、私たち一人ひとりから始まります。善意と誠意をもって、小さな一歩を粘り強く積み重ねること——そこからすべてが始まると、私たちは信じています。

Let’s Do It World は、いかなる分断をも越えて橋を架けることができることを示すために存在しています。戦時下にある国と平和な国の間に、異なる文化や価値観の間に、政府、企業、NGO、そして地域社会の間に。私たちは、ひとつの根源的な真理を理解しています。より健全な地球、より清らかな大地、より澄んだ空気を目指して競争するのではありません。皆で力を合わせるのです。共に。

あらためて、皆さまお一人おひとりに、心より感謝を申し上げます。大きな役割であれ小さな貢献であれ、このネットワークの一員として力を尽くしてくださる皆さま。努力が重く感じられるときも、目に見えないときも、決してあきらめなかった皆さま。

週ごと、月ごと、年ごとに、変わらぬ姿勢で歩み続けてくださる皆さまこそ、この運動の礎です。皆さんの粘り強さ、諦めない姿勢、他の人なら諦めてしまうかもしれない状況でも静かに献身的に努力する姿勢、これこそが私たちを支えているのです。真の変革をもたらすのはドラマチックな瞬間ではなく、小さく誠実な行動の積み重ねにあるのだと、気づかされます。

善良な心をもって先頭に立っている皆さま。忍耐をもって調整し、品位をもって対立を解決し、限られた資源の中でも他者のための場を築く皆さま。それこそが真のリーダーシップであることを私たちに教えてくださっています。自我のためではなく、奉仕のためのリーダーシップ。ともに高まり、ともに前進するという理解に立つリーダーシップです。

あらゆる協働に善意を携えて臨む皆さま。まず理解しようと努め、困難な状況にあっても他者の可能性を信じ続ける皆さま。皆さまは、この世界が切実に必要としている「橋」を築いています。その善意こそが、多様で複雑なこのネットワークを結びつける力です。

紛争地や資源の限られた地域、困難に直面するコミュニティで活動する皆さまの勇気は、言葉では言い尽くせません。皆さまは、希望とは単なる楽観ではなく、状況がいかに厳しくとも、より良き未来のために行動するという勇気ある選択であることを示してくださっています。

舞台裏で支えてくださる皆さま。データベースを管理し、メールに応え、物流を担い、目立たぬ仕事を粛々と果たしてくださる皆さま。皆さまの力は確かに理解され、尊ばれています。不可欠な存在なのですから。成果がなかなか見えてこないと感じるときでさえ、このビジョンを信じ、時間と資源と専門性、そして信頼を投じてくださる皆さま。皆さまこそが、このムーブメントを成長させ進化させる礎です。

あきらめなかったことに、継続してくださったことに、善き心を携えてくださったことに、そして境界を越えて協働し、困難の中でも共に歩むことを選び続けてくださったことに、心から感謝申し上げます。

2026年を迎えるにあたり、本部としても、皆さまと同じ善き心と善意をもって、このネットワークに奉仕し続けることをここにお約束します。

協働を促進し、すべての声を尊重し、困難な時にも歩みを止めず、誠実さと一貫性をもって臨んでまいります。

2026年が、この歩みをさらに深める一年となりますように。
開かれた心と揺るぎない志をもって、私たちが築こうとしている世界に向けて。

深い感謝と希望、そして愛を込めて。

Heidi Solba
ヘイディ・ソルバ
Let’s Do It World 本部
プレジデント兼CEO

担当ディレクターからのメッセージ

Bill Willoughby
ビル・ウィロビー
北米地域担当ディレクター

本年は、私たちにとって非常に忙しく、刺激に満ちた一年となりました。National Cleanup Dayのリーダーがエストニア・タリンで開催された総会ワークグループに出席し、また別のリーダーがウクライナ・キーウを訪問してWorld Cleanup Dayのコールメディアセンターでの放送に参加するなど、国際的な活動が展開されました。同時に、地域の環境運動においても多くの変化がありました。

米国では、現政権が広範囲に及ぶ大統領令から一見目立たない規制改定に至るまで、400件を超える措置を講じており、環境運動に対する政府の姿勢および、私たちのパートナーによる清掃活動への関与のあり方に大きな影響を及ぼしています。

こうした状況を受け、私たちは北米における自治体、企業、教育機関、各種団体に対し、廃棄物問題および社会的責任に関する意識を高めるための新たなマーケティング手法を開発してきました。また、新規パートナーシップの構築に注力するとともに、既存の協力関係強化にも取り組んでいます。その一例として、Keep America Beautiful、Earth Day、Zero Waste International Allianceをはじめとする多くの団体との連携を再構築しています。

既存の多面的なテクノロジーおよびマーケティング・プラットフォームを活用し、World Cleanup Dayの重要性について広く周知を図るとともに、不適切に管理された廃棄物やプラスチック問題への対応を進めてきました。さらに、Verizonをはじめとする大手企業との今後の協働など、新たなパートナーとの連携を通じて清掃活動の実施機会を拡大し、新たな分野への展開を図っています。

私たちの根幹にある信念は、人は本来、正しい行いを望んでいるという考えです。必要なのは、わずかな後押しやきっかけでいいのです。もし Let's Do It Worldのムーブメントが、さらに何百万もの人々を鼓舞し、それぞれの地域社会における清掃活動へと参加を促すことができたなら、どれほど大きな変化が生まれるか考えてみましょう。

Stephan Senghor
ステファン・センゴール
アフリカ地域担当ディレクター

私たちの地域、そして世界が依然としてさまざまな困難に直面している中にあっても、2025年は「希望は力を合わせた行動として形にできる」ことを示す一年となりました。環境への圧力と先行きの不透明さが続く時代においても、Let's Do It Worldは、集団的行動の確かな推進力として歩みを止めることはありませんでした。私たちの地域全体において、ボランティア、各国リーダー、自治体、そしてパートナーの皆さまが前向きに行動してくださいました。それはやり易い状況であったからではなく、果たすべき責任があったからにほかなりません。

私たちの活動は、単なるクリーンアップにとどまりません。共有の空間をよみがえらせ、人と人との信頼を育み、力を合わせれば大きな行動を起こすことができると示しています。この報告書が伝えているのは、活動の記録だけではありません。そこには、困難にしなやかに向き合い、協力し合い、共に解決策をつくっていこうとする私たちの強い思いが込められています。厳しい状況の中でも、このムーブメントは、人々の「行動しよう」という意志によってつながり、広がり続けています。その姿は、社会の中に見える一筋の光のようなものです。この取り組みは、これからも続いていきます。

Nima Zare
ニマ・ザレ

西アジア地域担当ディレクター

西アジア22か国において、ボランティア、リーダー、そして多くの団体が手を携え、責任を引き受け、意識を高め、希望を広げるために行動しました。これらの取り組みは、単に身の回りをクリーンアップすることにとどまるものではなく、人と人との絆を強め、信頼を築き、力を合わせれば前向きな変化を実現できることを示すものでした。そのエネルギーと揺るぎない決意は、環境への責任が決して贅沢な選択肢ではなく、私たちの共有する未来にとって不可欠なものであることを、あらためて思い起こさせてくれます。

こうした貴重な経験を礎として、2026年は、パートナーシップのさらなる深化、地域主導の取り組みの拡充、知見共有の機会創出、そして共同プロジェクトおよびキャンペーンの実施に重点を置いていきます。

2025年に生まれた勢いを新たな年へとつなげていきましょう。すべての行動に意味があり、すべての声に価値があり、その一歩一歩が、より清潔で健やかで、思いやりに満ちた地球へと私たちを近づけていきます。

新たな一年を迎えるにあたり、Let's Do It Worldグローバルネットワークにおける結束と共通の使命から生まれる力を、あらためて強く実感しています。尊厳、包摂性、そして実質的な成果を指針としながら歩んだ2025年の道のりは、地域社会やパートナーとの協働が、課題を機会へと、志を具体的な成果へと転換し得ることを示しました。

私たちの取り組みは、実施するキャンペーンそのものにとどまりません。そこには、私たちが育む希望と、共に形づくる未来があります。節目ごとの成果は、チームの献身とパートナーの信頼の結晶にほかなりません。

World Cleanup Day 2025は、まさにその精神を体現する象徴的な事例となりました。

西アジア地域担当ディレクターとして、複雑な課題に直面しながらも、持続可能性の推進に尽力し続けている地域のリーダーの勇気と献身を、ここに誇りをもってご紹介いたします。

Agustina Iskandar
アグスティナ・イスカンダル
アジア地域担当ディレクター

アジア21か国が結束し、地域におけるより強固な「家族」としてのつながりを築いています。私たちは、このファミリーの一員であるという帰属意識を維持するために、真摯な努力を重ねてきました。毎年、対面での集いを欠かすことなく継続しています。2024年にはマレーシアおよび日本で開催されました。そして2025年には、シンガポールにおいて リーダーズ・アカデミーを実施し、再びネットワークのメンバーが一堂に会しました。

7月にシンガポールで開催された3泊4日のプログラムでは、リーダーズ・アカデミーに参加した各代表から力強いコミットメントが示されました。なかでも、次回のリーダーズ・アカデミーの開催地としてモルディブ、カンボジア、フィリピン、タイが名乗りを上げてくださったことは、大変心強い出来事でした。ネットワークが好事例から学び、主体的に行動していることを嬉しく思います。

参加者は、各国の優れた実践事例を学び合い、ネットワークを強化し、資源を共有することの重要性を深く理解しています。こうした協働こそが、私たちのムーブメントにとって不可欠な要素です。

2026年を迎えるにあたり、マレーシア・クチンにてアジア会議を、そしてモルディブにてリーダーズ・アカデミーを開催する予定であることをお知らせいたします。地域においてさらなるインパクトを創出する、二つの重要な機会となります。これらの機会は、ネットワーク内における資源の交換と連携を一層促進し、毎年のWorld Cleanup Dayをより大きな成功へと導く原動力となるでしょう。

最後に、日々献身的にネットワークを支えてくださっているアジアオフィスチームの皆さまに、心より感謝申し上げます。そして各国のリーダーおよびチームの皆さま、皆さまの努力は大きな成果を生み出しました。深く、深く感謝いたします。

José Roberto García Palafox
ホセ・ロベルト・ガルシア
ラテンアメリカ地域担当ディレクター

2025年、ラテンアメリカにおけるWorld Cleanup Dayは、大きな進化を遂げました。地域コミュニティによるクリーンアップ活動の枠を超え、より戦略的で持続可能な環境ガバナンスの高度なエコシステムへと発展したのです。資金調達の面でも重要な転換がありました。従来型の寄付中心のアプローチから一歩進み、クリーンアップ活動を社会の安全や公衆衛生と結びつけることで、新たな支援の道を切り開きました。たとえば、クリーンアップを暴力予防の取り組みとして位置づけることで アメリカ合衆国国際開発庁（USAID）の資金を確保し、さらに廃棄物管理を感染症対策と関連づけることで日本のインフラ支援にもつなげました。

メキシコは、1,430万本という記録的な吸い殻回収を達成し、地域全体のモデルを示しました。この成果により、クリーンアップ活動の意義は景観の改善にとどまらず、環境保健や有害物質対策へと視点が広がりました。ブラジルは「Less Waste, Better Climate」キャンペーンを通じて廃棄物管理を気候変動対策の文脈に位置づけ、ベレンで開催予定のCOP30 に向けた議論にもつなげました。また、州立学校の教育課程にWorld Cleanup Dayを組み込む取り組みも進めています。

グアテマラでは、リオ・ラス・バカス川においてインターセプター021技術を導入し、大型回収設備と地域住民の協力を組み合わせることで、越境する廃棄物問題に取り組みました。コスタリカは、「エコイン」と呼ばれる仕組みを導入し、持続可能な行動に対して報酬を与えることで参加を促す新たなアプローチを展開しました。コロンビアは、Erasmus+支援による TechTraPlastiCE プロジェクトを通じて、World Cleanup Dayを循環型経済を学ぶ実践の場へと発展させました。チリは、国家戦略「Zero Waste 2040」の中でWorld Cleanup Dayを重要な節目として位置づけ、特にメタン排出削減に焦点を当てています。エクアドルでは、このムーブメントを「ミンガ（Minga）」という先祖伝来の共同労働の概念と結びつけ、クリーンアップ活動に植林や生態系回復を組み合わせた包括的な取り組みへと発展させました。

このように、ラテンアメリカ地域は単なるイベントの主催者ではなく、公共政策、技術革新、そして気候分野での国際的対話を促す存在へと役割を広げています。

Pål Mårtensson
パル・マルテンソン
オセアニア地域担当ディレクター

オセアニアは、広大な太平洋の中心に位置しています。強い海流によって、世界各地から流出したプラスチックごみがこの海域へと運び込まれます。しかし、この地域が直面する課題は、遠方からもたらされる汚染だけにとどまりません。多くの島嶼国における消費の拡大やマスツーリズムの進展もまた、脆弱な生態系や沿岸コミュニティを脅かす廃棄物問題の一因となっています。一方で、予防的な取り組みにおいて先進的な島々も存在します。たとえば、海洋の微生物に悪影響を及ぼし、水質を汚染する恐れがあることから、日焼け止めの使用を禁止している地域もあります。

多くの太平洋諸島にとって大きな障壁となっているのは、持続可能な廃棄物管理システムを構築するうえでの、物流上の困難さです。距離があること、限られた輸送手段、そして高い運営コストにより、廃棄物はやむなく露天の埋立地に投棄されたり、屋外で焼却されたりすることが多いのです。これらの方法は、環境や生物多様性、公衆衛生、さらには気候にも深刻な影響を及ぼします。

それでもなお、前向きな変化は着実に生まれています。分別システムの改善、地域社会での教育活動、小規模リサイクル事業の推進などを通じて、廃棄物管理の向上に取り組む島々が増えています。

さらに、より高度な処理施設がある近隣の島へリサイクル可能な廃棄物を輸送する動きも見られ、クリーンな太平洋の実現に向けた地域間連携が進みつつあります。

オセアニア全域において、献身的なボランティアの皆さまが行動を続けています。オーストラリアとニュージーランドは安定したリーダーシップを発揮し、フィジーをはじめとする多くの太平洋諸国では、都市部から遠隔地に至るまで何千人もの人々が参加しています。その揺るぎない決意は、この地域の強さとしなやかさを雄弁に物語っています。

また、海岸やサンゴ礁、地域社会を守るために尽力されている多くの団体の存在にも、深い敬意を表します。そうした活動は、私たちの共有する使命を力強く支えています。

Let's Do It World およびWorld Cleanup Dayは、オセアニアにおいて最大かつ最も結束力のあるクリーンアップ・ムーブメントであり続けています。毎年9月20日の国連公式カレンダーの日には、地域全体のコミュニティが心を一つにし、ごみの回収、意識啓発、そして長期的解決策の推進に取り組みます。私たちの協働は、互いを結ぶ海を守り、地域のレジリエンスを高め、そして世界へと希望を広げ続けています。

Luan Hasanaj
ルアン・ハサナジ
ヨーロッパ地域担当ディレクター

2025年は、ヨーロッパ全域においてLet's Do It Worldムーブメントがもつ強さと回復力を、あらためて示す年となりました。環境・社会・経済の各分野でさまざまな課題が顕在化する時代にあっても、私たちのネットワークは着実に成長を続け、互いに結びつきを深めながら、確固たる決意と希望をもって行動してきました。

本年、特に心強い進展の一つは、ヨーロッパ各地の団体や財団との協力協定が着実に締結されたことです。これらのパートナーシップは、地域間の連携を一層強固なものとし、共同プロジェクトの新たな機会を生み出すとともに、意義ある環境変革を推進する市民社会の役割を改めて確かなものとしました。国境を越えて協働することにより、共有する価値観と連帯の責任が、進歩を生み出す大きな力であることが証明されました。

私が何より誇りに感じるのは、私たちのムーブメントを特徴づける、活気と熱意に満ちた精神です。ヨーロッパ各地で、より多くの人々が自らボランティア活動へ一歩を踏み出し、時間を捧げ、主体的に活動へ参画しています。

この広がりは、共通の環境に対する意識の深化と、責任を担おうとする真摯な意思の表れにほかなりません。私たちのムーブメントは、参加者数の増加のみならず、そのエネルギー、創造性、そしてコミットメントの面においても着実に拡大しています。World Cleanup Dayや年間を通じた取り組みを通して、地域に根ざした行動がより大きな変化へとつながっていく姿を、私たちは目の当たりにしてきました。不確実な時代にあっても、前向きな行動には意味がある——その共通の信念のもと、地域社会、リーダー、ボランティアが力を合わせています。この連帯の力こそがLet's Do It Worldの精神を支え、個々のイベントを超えて、その意義を広く社会へと響かせ続けているのです。

この歩みに貢献してくださったヨーロッパ各国のリーダー、パートナー、そしてボランティアの皆さまに、心より感謝申し上げます。皆さまの献身、信頼、そして共通の使命への確信が、私たちの成果を可能にしています。これからも協働を育み、この力強い精神を大切にし、さらに多くの仲間を迎え入れながら、より清潔で、より健やかで、より結束した未来を、ともに築いていけると確信しています。

Let's do it!

Let’s Do It World 後援者とアンバサダー

Let’s Do It Worldは、すべての後援者、アンバサダーの皆様に心からの敬意と感謝を捧げます。皆様の献身と情熱こそが、私たちの組織の力強い原動力となってきました。世界各地にポジティブチェンジへのメッセージを広めて、共に描く夢の実現に向けて、欠かせない役割を果たしてくださっています。

Let’s Do It World 後援者

「私は、World Cleanup Dayの後援者であることを誇りに思います。私たちは地球への向き合い方を変え、その資源を大切にし、生物多様性を守らなければなりません。誰もが、そしてどんな人でも、この取り組みに貢献できるのです。」

Ursula von der Leyen
ウルズラ・フォン・デア・ライエン
欧州委員会委員長

「汚染、廃棄物管理、資源の持続可能性は、私たち欧州議会が真剣に取り組んでいる課題です。だからこそ、World Cleanup Dayのような運動が重要なのです。環境に優しい未来を追求し続けるために、皆さんのリーダーシップとごみ問題への献身的な取り組みは、非常に称賛に値します。」

Roberta Metsola
ロベルタ・メッツォラ
欧州議会議長

Let’s Do It World アンバサダー

クリスチャン・ヤルヴィ氏は、エストニア/アメリカの著名な指揮者、プロデューサー、作曲家、編曲家です。

「Let’s Do It Worldは、意義を生み出し、人類を次のレベルへと引き上げる機会を与えてくれる必要不可欠なものです。Let’s Do It Worldの環境活動には、個人、地域、世界、すべてのレベルが関係しています！自分自身や環境に対して責任を持つことで、私たちは新しい現実を作り上げることができます。何をすべきで、何をすべきでないかの決断に向けての人類の姿勢は、確固たるものとなりました。

エストニアから世界へと発展したこの運動は、エストニア人の考え方の大きさ、自然との関わり方や自然そのものを雄弁に物語るものです。Let’s Do It Worldは、世界中の市民による素晴らしい貢献であり、世界を一つの考え方で結びつける模範となる取り組みです。」

Kristjan Järvi
クリスチャン・ヤルヴィ
指揮者・作曲家

ファーティハ・アーヤット氏は、バングラデシュ出身、現在はアメリカ合衆国ニューヨーク在住の13歳の気候アクティビストです。World Cleanup Dayのユースアンバサダーを務めるほか、子どもの権利擁護活動家およびキャンペーナーとしても活躍し、地球温暖化、気候変動、炭素排出、化石燃料問題などについて継続的に発信を行っています。

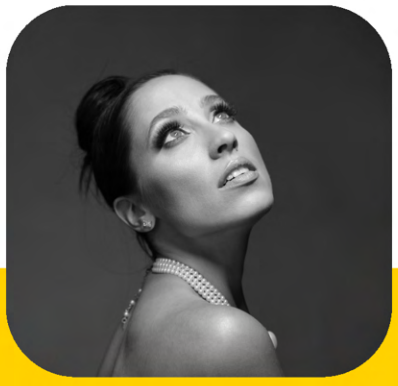
また、これまでに4冊の著書を出版しており、ハーバード大学継続教育部門が実施する専門能力開発プログラム「リーダーになるためのプロフェッショナル開発プログラム」を修了しました。ユースアンバサダーとしての小学校卒業時には、「優れた学業に対する大統領賞・金賞」を受賞しています。ファーティハは、自ら設立した団体「CHILandD」を運営し、気候、健康、情報、学習、開発といった分野における課題解決に取り組んでいます。

さらに、国連環境計画が主催する「私の目標 –より良き未来に向けて」においてチャンピオンに選出されました。彼女が制作した火 星探査車「パーサヴィアランス」とヘリコプター「インジェニュイテ ィ」のプロトタイプ（原型）は、NASAジェット推進研究所での展示候補としてノミネートされています。また、「アドヴェナ・ワールド・アート・コンペティション」の「脅威にさらされる海洋」部門において、アメージング・アーティスト賞を受賞しました。

Faatiha Aayat
ファーティハ・アーヤト
World Cleanup Day ユースアンバサダー

エストニア出身のソプラノ歌手、エリナ・ネチャエワ氏は、オペラ界の新星として、世界中のコンサートや劇場のステージで活躍しています。エリナ氏は、重力の影響を受けない自由な歌声をもち、そのカリスマ性は、クラシックの愛好家だけでなくポップミュージックのファンも魅了しています。

エリナ氏はエストニア代表としてユーロビジョンで「ラ・フォルツァ」を披露しました。2022年に、地球の未来に対する痛切な思いを表現した新曲「Planet B」をリリース。



この星を壊してしまったら、空の彼方にもうひとつの故郷、第２の星はないのだと、彼女は音楽を通して語ります。地球は1つしかないのです！私たちの美しい緑の地球を、そしてお互いを大切にしましょう。私たちは１つです！エリナ氏はこの曲の収入の半分をWorld Cleanup Dayの成功のために寄付しています。

Elina Nechayeva
エリナ・ネチャエワ
オペラ歌手

メルル・リーヴァンド氏はエストニア・タリン出身の競泳選手、モデル、アクアプレー、SWIMERA CEO、AMBASSADOR、トライアスロン選手、国際広報担当、オープンウォータースイマー。彼女は主に、現代の生きる人魚と氷の王女として知られており、水の世界に対する情熱と人生の探求をし続けています。

彼女は、海洋に関する法律を変えました。また世界経済フォーラムは彼女を気候変動と海洋汚染に関するフロントボイスに任命しました。マイアミビーチの市長は、彼女の誕生日である4月17日を「メルル・リーヴァンドの日」と命名したほどです。彼女は4つのギネス世界記録をもち、アスリートとして、また海洋アンバサダーとして、その道を歩み続けています。

彼女は短編映画「マイクロプラスチックに対するマーメイド革命」でハリウッド・グローバル・インパクト・フィルム・アワードを受賞し、グローバル・インフルエンサーに選出されました。彼女の最大の夢は、地球上のすべての面が「プラストデミア」（彼女自身の造語で、プラスチック感染症）の汚染から解放されて、きれいになるのを見ることです。

Merle Liivand
メルル・リーヴァンド
競泳選手・起業家

クリスティン・フィグナー氏はドイツの海洋保護生物学者、作家、科学コミュニケーター、海洋アドボケーターであり、ウミガメの保護と プラスチック汚染との闘いの活動で知られています。

「ウミガメの生物学者として、私は15年以上にわたってプラスチック汚染が海洋生物に与える痛みや苦しみを目の当たりにしてきました。すでに絶滅の危機に瀕しているウミガメは、プラスチックを摂取し、プラスチックのためにヒレ足や体の一部を失い、その結果、ゆっくりと痛みを伴う死を遂げることがよくあります。

ウミガメが直面する脅威はこれだけではありません。消費中心の経済から生じる、私たち人間の便利さを優先したライフスタイル、そして個々の人々の行動から生じている脅威なのです。プラスチック汚染の危機は世界的な問題です。多くの場合、一人では解決できず、集団でなければ解決できない圧倒されそうなほど大きな問題です。

当然のことながら、World Cleanup Dayのアンバサダーに任命され、人々を結集し、自らの役割を果たすよう鼓舞する世界的な取り組みに携わることができたのは大変名誉なことです。また、World Cleanup Dayに参加し、すでに起こってしまっている被害を修復し、World Cleanup Dayの日だけでなくその後もプラスチックのないライフスタイルと意識ある消費ロールモデルとなることは大変光栄です。」

Christine Figgener
クリスティン・フィグナー
海洋保全生物学者

ヨハン・ウルブ氏は、エストニア系アメリカ人の俳優・プロデューサーであり、エネルギーの本質を探求する自己啓発コーチとして広く知られています。また、「ピラミッド・ブレス・メソッド」の創始者でもあります。

ヨハン氏は、人々が本来の自分自身を受け入れ、自己探求の旅を歩めるよう導いています。その深い洞察は、人生の目的とバランスを求める多くの人々に気づきと勇気を与え続けています。

「人は体験を分かち合うことで、自然とつながり、コミュニティは育っていきます。そうしたつながりが、人々を結びつけ、より大きな力と親密さを生み出していくのです。私はこれまで、人々とともに『内側からのクリーンアップ』に取り組んできました。一方で、World Cleanup Dayは、私たちの外側の環境に目を向け、行動することを促してくれます。この2つはとても相性がいいのです。内側をきれいにし、そして外側もきれいにする、その両方が大切なのです。

私たちは、共に取り組むことで、より良くなれる存在です。内と外、上と下——それらはすべてつながっていて、私たちの価値観が調和していることを表しています。ぜひ、目を開いて、いま目の前にある世界をしっかりと見つめてほしいのです。主体的に行動すること、創造的に心を整えること、そして、この世界すべてとのつながりを感じること。そうした本当の一体感こそ、私がWorld Cleanup Dayのムーブメントにもたらしたいものです。」

Johann Urb
ヨハン・ウルブ
俳優・自己啓発コーチ

ミッション

私たちは、
持続可能な変革を推進するために、
個人、地域社会、組織、政府が協力し、
廃棄物管理の改善と分野を超えた連携を
促進することを目指します。

ビジョン

ごみのない、健全な世界

Let's Do It World（LDIW）は、人々が力を合わせて行動する前向きなパートナーシップこそが、
社会に必要な変化を生み出す原動力になるという確固たる信念を持っています。

ごみのない世界を取り戻すためには、
社会のあらゆる分野が共に力を合わせて取り組むことが欠かせません。

すべての取り組みにおいて、希望、前向きな姿勢、そして透明性を大切にし、背景や立場を問わず、
課題解決に意欲のあるすべての人に参加を呼びかけています。

ヴァリュー

ポジティブさ

私たちは楽観的かつ積極的な姿勢を大切にし、前向きな思考が私たち全体の意識に与える影響を信じています。

責任

私たちは、一人ひとりが持続可能な文化と地球環境の健全性に貢献するための前向きな行動に責任をもつことを促します。

透明性

私たちは開かれたコミュニケーションを実践し、情報が自由に流れる環境を積極的に支援します。また、組織運営や財務を含む意思決定の透明性を維持します。

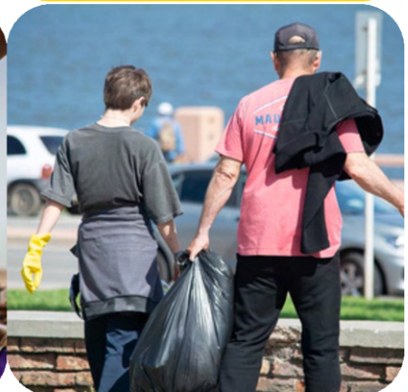
包括性

すべての人が地球環境の守り手となることを歓迎し、誰もが尊重される環境を築くことを目指します。また、国境を越えた団結によって協力の障壁を乗り越えることを奨励します。

LDIW戦略 2025 – 2030

Let's Do It Worldはいま、組織として大きな転換期を迎えています。私たちは、今後6年間の方向性を描くための包括的な戦略づくりに着手しました。この6年間は、私たちが単なる動員型ムーブメントにとどまるのか、それとも環境課題に継続的に取り組むための持続的な仕組みへと発展できるのかを決める、大切な期間となります。

この戦略は、互いに関連し合う6つのワークストリームで構成されています。それぞれが、組織としての成長と変化に必要な重要テーマに取り組むと同時に、規模を広げていく中でも、私たちの草の根の精神や現場に根ざした姿勢を大切にし続けることを目指しています。



1.強固なLDIWを支える持続可能な資金基盤

サステナブルな資金確保は、私たちが世界各地で意義あるプロジェクトを実行するための基盤です。LDIWは、政府機関、国際機関、企業、財団などとのパートナーシップを積極的に構築し、キャンペーンやプロジェクトのための助成金や資金を確保できるように力を尽くしています。
また、環境保全に強い関心をもつ人々や企業とも連携し、企業の社会的責任（CSR）活動を通じて、私たちの活動への参加と寄付やスポンサーシップ、支援を呼びかけています。

財務報告の透明性を確保することにより、寄付金がどのように活用されているかを明確にし、説明責任と信頼の維持に努めています。さらに、世界各地でファンドレイジングイベントを開催し、資金調達を行うと同時に、地域社会の参加やアドボカシーの推進にもつなげています。

2030年までの目標

- 少なくとも5つの多様かつ安定的な恒久的資金源を確保して、LDIW本部の恒常的資金基盤を確立させる
- 不測の事態に迅速に対応できる体制を整える
- クリーンアップ活動、各種プログラム、組織開発のために、少なくとも1,000万ユーロの追加資金を確保する

2. 国連カレンダーを通じてWCDを強化する

World Cleanup Day（WCD）は、国連の「国際デーおよび国際週間」公式カレンダーに掲載されており、国際社会において正式に認知されたグローバルな協働プラットフォームとして位置づけられています。LDIWは、国連人間居住計画（UN-Habitat）との継続的かつ戦略的なパートナーシップを維持し、国連の持続可能な開発目標（SDGs）と歩調を合わせながら活動を展開しています。
2024年以降は、WCD関連の主要行事（コール＆メディアセンター、WCDライブ配信、LDIWカンファレンス等）の開催国を募り、国際的な発信力と制度的基盤をさらに強化していきます。
世界有数の「ごみ問題に取り組むネットワーク」として、LDIWは国連枠組みのもとで国際的な認知と信頼を高めつつ、環境課題に対する世界的な意識向上を牽引しています。さらに、志を同じくする国際機関、各国政府、企業、市民社会と連携し、管理不十分な廃棄物問題という地球規模の課題に対し、国際的な連帯のもとで取り組んでいます。

2030年までの目標

- 国連人間居住計画（UN-Habitat）と恒久的パートナーシップを確立する
- WCDのための世界的著名ブランドアンバサダーを迎える
- 国連デー関連行事の開催国を3地域から選定する
- 国連機関との効果的なパートナーシップを通じて、世界人口の5%（合計4億～4億1千万人）が参加するよう、すべての加盟国でWCDを積極的に推進する

3. 教育プログラムとアドボカシー

私たちは、廃棄物が環境に与える影響について分野横断的な意識向上を図るとともに、教育プログラムやワークショップ、アドボカシー・キャンペーンを通じて持続可能な実践を広げることに力を注いでいます。これらの取り組みは、教育機関や民間組織など、さまざまな場で展開されています。
一人ひとり、そして地域社会が正しい知識に基づいて選択できるよう促すことで、廃棄物削減と責任ある資源管理が日常生活の中に自然に組み込まれた社会の実現を目指しています。幅広いサステナビリティの概念を取り入れた実践的・体験型のプログラムを通じて理解を深め、すべての参加者が、より前向きかつ継続的に、健全で廃棄物のない世界づくりに貢献できるよう後押ししています。
また、企業とのパートナーシップを構築し、CSRやESG目標の達成に資する意識啓発型トレーニングプログラムの開発を継続していきます。さらに、学校や大学をはじめとする教育機関に対しては、環境フレームワークを教育課程へ統合するよう働きかけていきます。各プログラムを修了した参加者には、LDIWより修了証を発行します。

2030年までの目標

- LDIWナレッジハブを設立
- 民間企業の環境意識向上を支援する研修プログラムを開発
- LDIWネットワークの各国リーダー、または指名されたチームメンバーの25%が、LDIWナレッジハブの教育プログラムおよびゼロウェイスト関連トピックを提供できるよう認定

4. 測定可能なインパクト（LDIWインパクトモデル）

Let's Do It Worldのより広範囲な目的は、廃棄物管理をめぐる社会の変革を促すために、人々を巻き込み、教育し、そしてその行動を後押しする触媒として機能することにあります。私たちは、その成果を的確に把握し、可視化するために「LDIWインパクトモデル」の構築を進めています。
私たちは包括的なインパクト評価プロセスと透明性の高い報告を通じて、ごみの削減、環境の保全、そして地域社会のウェルビーイング向上といった、具体的な成果を明確に示すことを目指します。初期段階のインパクトモデルは、World Cleanup Dayをはじめとする主要プロジェクトの測定可能な成果に基づき策定されます。このモデルは、科学者や各分野の専門家（SMEs）で構成されるアドバイザリー・カウンシルと連携して構築されます。
さらに、本モデルを通じて地方自治体および中央政府との連携を深め、廃棄物管理の改善に向けたベストプラクティスの共有と普及を推進していきます。

2030年までの目標

- 分野別専門家によるアドバイザリー・カウンシルを設置する（SME、科学者、研究者、学識経験者、アクティビストなど）
- インパクトモデルのより広範な適用に向けた将来目標（例：2030年以降）を明確化する
- 実社会にLDIWインパクトモデルを導入し、その有効性を検証・改善する

5. 高度な専門性を備えたLDIWネットワークのサステナビリティ専門家

LDIW本部は、環境課題に協働して取り組むサステナビリティの専門家たちによるグローバルネットワーク構築のビジョンを描いています。LDIWの枠組みの中から専門性を育成し、世界各地で持続可能な実践を推進できる体制を整えることを目指します。このネットワークは、「ナレッジ・ハブ」と呼ばれる強固な知識共有プラットフォームを確立し、本部のラーニング＆ディベロップメントチームがその運営と発展を支えます。本プラットフォームを通じて、ベストプラクティス、研究成果、革新的なアプローチなどを共有し、組織全体の能力向上を図ります。スキル向上のためのワークショップやウェビナー、カスケード型・ピアツーピア型ラーニングシステム、協働プロジェクトなどを通じて、新たな課題への理解を深め、環境保全に向けた効果的な戦略を構築していきます。

また、本部内に設置されるラーニング＆ディベロップメントセンターは、環境および持続可能性に関する有望なプロジェクトアイディアを選定し、実践的かつ有益なプログラムへと発展させます。これらのプログラムは、ナレッジ・ハブを通じて展開されます。

2030年までの目標

- ナレッジ・ハブを通じてネットワークメンバーの能力向上を目的とした育成プログラムを展開する
- LDIWを地方・地域・国際レベルで信頼される環境分野におけるコンサルティング・パートナーとしての地位を確立させる

6. デジタル・クリーンアップ・デーとグリーンICT

このワークストリームの理想は、LDIWをデジタル・サステナビリティ分野のリーダーとして位置づけることです。長期的には、組織に与えるサステナブル認証ラベルの中核的ハブとなり、説明責任と信頼性を高めるとともに、戦略的な影響力をもつ存在となることを目指します。

デジタル・クリーンアップ・デー（DCD）の目的:

- テクノロジーが環境に与える負の影響についての認識を高める。
- デジタル・フットプリントがもたらす環境負荷を軽減するため、具体的な行動を促す。
- グリーンICTの原則に基づき、持続可能なテクノロジー利用を積極的に推進する。
- 不要なデータ（重複した写真・動画、使用していない大容量ファイル等）の特定・削除などの行動を促し、デジタル機器をもつすべての人が参加できる機会を提供する。

デジタル・クリーンアップを通じて、私たちはデジタル廃棄物の影響、とりわけ過剰なエネルギー消費や、毎年何千トンにも及ぶ不要な温室効果ガス排出の問題を可視化します。

LDIWは、グリーンICTの推進において協働が不可欠であると認識しています。業界のリーダー、政策立案者、学術機関、市民社会組織とのパートナーシップを構築し、より持続可能なICTエコシステムの実現に向けた共同の取り組みを推進していきます。

2030年までの目標

- 組織内にデジタルごみ分野の専門家を20名育成する
- デジタル化とデジタル・クリーンアップの関連性をメディアに働きかける
- LDIWカントリーチームの50%がデジタル・クリーンアップ・デーに取り組むよう体制を拡大させる
- サステナブル認証ラベルにを組織へ付与する仕組みを確立し、デジタルごみ対策の中核ハブとなる

私たちの歩み

Let's Do It World（LDIW）は、世界最大級の環境団体として認知されており、現在164か国に広がる“ファミリー”型ネットワークを通じて、地球規模のごみ問題に取り組んでいます。2019年に国際NGOとして正式に設立され、World Cleanup Day（WCD）およびDigital Cleanup Day（DCD）という旗艦イベントを通じて、世界中の数百万人を結集しています。

私たちの歩みは、2008年にエストニアで始まりました。「Teeme Ära（英語でLet's Do It！）」の掛け声のもと、5万人のボランティアがわずか5時間で1万トンのごみを回収するという前例のない成果を成し遂げました。この出来事が、世界的ムーブメントの原点となりました。2011年には、その理念を国際的に展開するため、Let's Do It Foundationが設立されました。

そして2019年にLet's Do It WorldがNGOとして設立されたことにより、系統化された枠組みが確立され、世界的なネットワークがさらに強化されました。この戦略的発展により、標準化されたアプローチ、強固な協力関係、各国のリーダーへの支援が進みました。同年、180カ国から2,100万人がWCDに参加し、記録的な成功を収めました。標準化されたアプローチの導入、連携体制の強化、各国リーダーへの支援拡充が進められました。同年には記録的な成果を達成し、180か国から2,100万人がWorld Cleanup Dayに参加しました。

ムーブメントの成長は、その国際的影響力の高まりを示しています。2014年には、「世界人口の5%を1日のクリーンアップ活動に参加させる」という大きな目標を掲げました。この目標は、その後の取り組みの方向性を決定づける指標となっています。2018年には、初の同時開催型World Cleanup Dayが実現し、24時間にわたる“グリーン・アクションの波”として1,800万人が参加し、国際的環境協働の新たな基準を打ち立てました。さらに2019年のWorld Cleanup Dayには、参加者数が2,100万人を超え、世界規模での期待を大きく上回る成果を収めました。

しかし、現代の廃棄物管理の課題が進化する中で、特に「ロックダウンによる世界のクリーンアップ活動の停滞」に対応するため、LDIWは2020年にデジタル・クリーンアップ・デー（DCD)を開始しました。これは、デジタルごみによる環境負荷に取り組む画期的な試みです。また同年、コロナパンデミックの影響を受けて、初のオンライン会議を開催し、世界中の2,500人以上の代表者が戦略を共有し、サステナブルな活動の強化を図りました。

2022年にはコロナ後の回復が進み、1,500万人がクリーンアップ活動に参加。2023年になると、LDIWは国連から正式に認知され、1,910万人がWorld Cleanup Day 2023に参加、198か国で218,704トンのごみを回収しました。

2024年、World Cleanup Dayが初めて国連の国際デーの記念日として登録され、毎年9月20日に開催されることが決定。歴史的なこの年には、2,320万人が参加し、191か国でクリーンアップ活動が行われました。

現在、LDIWのグローバルネットワークはさらに拡大しており、組織的な環境活動や革新的な廃棄物管理アプローチ、地域社会との積極的な関与を通して、その影響力を強めています。

ほぼすべての国に活動の拠点を持つLDIWは、環境問題に立ち向かう集団的な行動の力を示し続けています。教育、意識向上、実践的な取り組みを通じて、地域社会が自らの環境に責任をもちつつ、世界的な進展に貢献できるよう支援しています。

私たちのムーヴメントは、草の根の行動がいかに世界的な変化を生み出すことができるかを証明しています。人々が共通の目標のために団結すれば、驚くべき成果を達成できるのです。

私たちの歩み：タイムライン

2008年
エストニアで5万人による初のクリーンアップ行動を実施

2009-2011年
エストニアにならって多くの国でクリーンアップ活動を実施

2011年 8月4日
国際的なクリーンアッププロジェクトを調整するため、Let's Do It 財団を設立

2012年
5か月にわたり世界96カ国で一連のクリーンアップ活動「WORLD CLEANUP 2012」を開催

2014年
クリーンアップモデルを1日に変更、世界人口５％に目標を定める

2018年 9月15日
第1回「WORLD CLEANUP DAY」を157か国で開催 1,800万人参加

2019年 2月26日
WCDと権利擁護を主導するために「Let's Do It World NGO」を設立

2019年 9月21日
WCDを180か国で開催 2,100万人参加

2020年3月21日
初めてのデジタルごみを対象としたDigital Cleanup Day 開催

2020年 9月19日
新型コロナウイルス感染パンデミックの中、166カ国でWCD開催

2021年 9月18日
パンデミック2年目も191カ国でWCD開催

2022年 9月17日
WCD190か国から1,500万人参加

2023年 9月16日
WCD198か国から1,900万人参加 国連国際デーに登録される

2024年 9月20日
国連国際デーに登録後初のWCD 191か国から2,300万人参加

2025年 9月20日
WCD190か国で2,500万人参加

WORLD
CLEANUP
DAY

インパクト

Let's Do It World（LDIW）のビジョンは、単なるクリーンアップ活動にとどまらず、ごみのない世界を創ることにあります。私たちは164か国で活動しており、その広範なネットワークと多様性が、ひとつの環境アクションを通して大きな影響力を生み出しています。私たちの取り組みは、気候変動、生物多様性の減少、ごみ問題に対応するためには、深いシステム変革が必要であると認識しています。World Cleanup Dayはそのための起爆剤となり、社会全体が意識を高め、果断に行動するきっかけを生み出しているのです。

私たちの「変革の理論」は、World Cleanup Dayがどのようにして継続的な変革をもたらしていくかを示しています。社会的変化が起こる転換点（ティッピング・ポイント）は人口の5%の参加とされています。私たちはこの目標を掲げ、大きな成功を収めてきました。2018年以降、複数の国がこの重要な基準値を達成または超えており、十分な協力があればどこでも変革が可能であることを証明しています。

世界規模での連帯と協働を実証してきた私たちの次なる目標は、これら大規模動員イベントによって生み出された勢いを持続させることです。
Let's Do It Worldの強みは、その包摂的なアプローチにあります。地域コミュニティと自治体をつなぎ、実践的な解決策をともに築いていくことにより、確かな変化を生み出しています。私たちの広範なネットワークは、一日あるいは複数日にわたるクリーンアップ活動を超え、年間を通じて影響を創出するムーブメントへと進化しました。

現在では、各国がそれぞれの地域特性や課題に即したインパクトモデルを構築・実行できるよう支援しています。
世界各地のチームは、環境教育の推進から循環型経済プロジェクトに至るまで、地域に則した廃棄物管理ソリューションを先導しています。この地域に合わせたアプローチにより、世界規模の原則が草の根レベルでの具体的かつ持続可能な変化へと確実に結びついています。

創設初期の成功により、クリーンアップの力が国全体の意識と行動を変えることができることがわかりました。現在も私たちのグローバルネットワークは、創設期の精神を受け継ぎ、さまざまな分野のパートナーとも信頼関係を築きながら草の根レベルで実践的な解決策を実行に移しています。多くの国・組織が連携することにより、私たちの取り組みは単発の活動のみならず、より大きな社会的変化へとつながっています。

大規模な参加、地域のリーダーシップ、地域に則した取り組み、そして継続的な行動——これらの組み合わせが、持続的な変革を築いていきます。各国は共通のビジョンである「ごみのない世界」を掲げながら、それぞれの現状に即した方法で取り組みを進めています。私たちは、クリーンアップ活動を行うだけでなく、教育と協働を通じて、廃棄物管理に対する社会の向き合い方そのものを前向きに変えていくことを目指しています。

ネットワークとメンバーシップ

Let's Do It Worldは、164カ国で活動する地域リーダーやチームのグローバルネットワークを代表する団体です。多くのリーダーやチームは、16年以上にわたって活動に関わってきました！

Let's Do It Worldを際立たせているのは、ネットワークの規模だけではありません。世界中に広がる仲間たちが、ひとつの理念のもとに結束し、統一性をもって行動していること——この「グローバルな一体感」こそが、私たちの最大の強みです。多様な背景をもつ各国のリーダーたちが集い、それぞれの経験を共有しながら、「地球環境をよりよくする」という共通の目標に向かって協働する姿を思い描いてください。人間によって作られた国境を超えた組織内に共通の価値観を築くことで変革は可能になるのです。

グローバルな一体感をもって活動することにより、「人類がひとつとなったときに何が実現できるか」を実証しています。World Cleanup Dayを通して、世界各地で何百万人もの人々が同時に行動を起こし、政府や企業、地域社会に対して「環境行動は可能であるだけでなく、必然である」という力強いメッセージを発信しています。このグローバルスケールの協働活動は、各国が単独で取り組むだけでは生み出せない大きなうねりを創出します。

この団体は、意思決定と戦略策定に民主性と参加型を重視するコレクティブモデルを採用しています。World Cleanup DayとDigital Cleanup Dayはいずれも、Let's Do It Worldのネットワークにおける協働的イノベーションから生まれました。

現在World Cleanup Dayは国連カレンダーに登録され、毎年9月20日が国際デーとなりました。これは、国境を越えて共通の理念とタイミングのもとに行動することが、いかに大きな影響力を生み出すかを示す象徴的な例です。この統一されたグローバルアプローチは、各国のローカルな活動に正当性と重みを与え、政府や企業と対話する際の大きな後ろ盾となっています。

Let's Do It World（LDWI）は、単にクリーンアップ活動を実施する組織というだけではなく、地球規模の一体性とそれぞれの地域での活動が互いに力を高め合う「ムーブメント」なのです。地球を未来の世代へ守りつないでいくという共通の目的のもと、世界中の人々の意識を高めながら、グローバルなコミュニティを築いています。この統一された世界的な枠組みは、各国で活動する環境リーダーたちに大きな力を与えています。彼らは、自分たちがより大きな世界的な運動の一員であることを実感しながら、それぞれの国や地域において影響力のある存在へと成長しています。

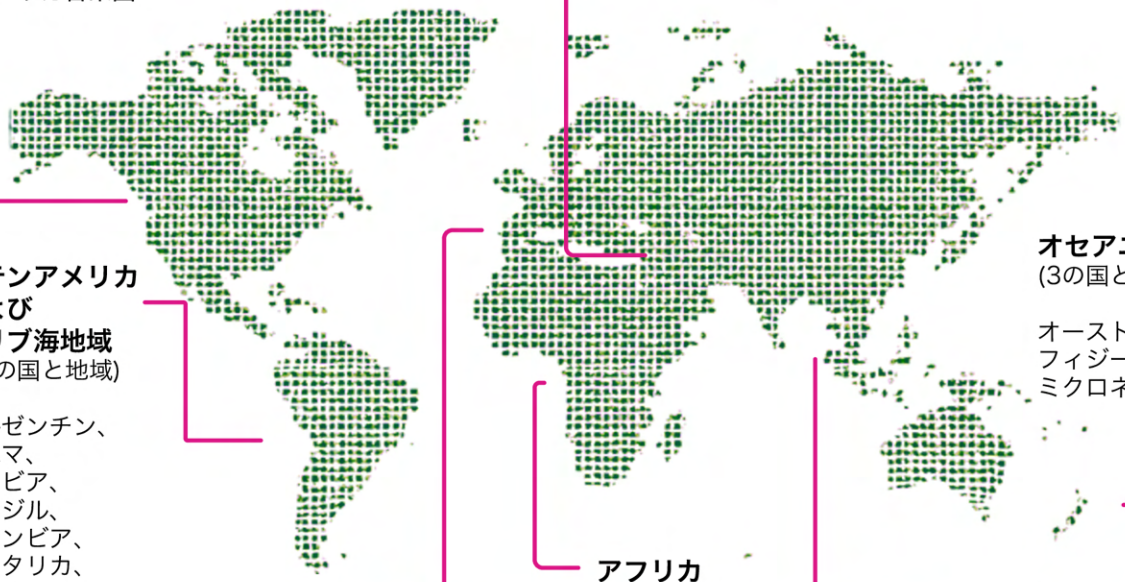
地域社会に根ざしながらも、世界全体でつながるLDIWのネットワークは、単なるクリーンアップ活動を超えた変化を生み出す原動力となっています。164か国で同時に行動できる私たちの力は、政府への働きかけやメディアの関心を高め、大規模な社会変革が実現可能であることを示しています。また、国境を越えて経験や解決策を共有することで、多様な取り組みを生み出し、広げていくことができる点も、LDIWネットワークの大きな特徴です。

このネットワークは、個人の成長の場としても発展してきました。各国のリーダーやチームメンバーは、活動を通じて社会の仕組みそのものを変えるための提唱者へと成長しています。彼らの経験は多くの人々に勇気と希望を与え、草の根の活動が世界的な連帯と結びつくことで大きな力になること、そして一人ひとりが環境分野のリーダーへと成長できることを示しています。ローカルレベルでリーダーシップを育てながら、同時に世界全体で共通の理念と行動を保つ。このアプローチは、組織としての強さを高めるだけでなく、環境ガバナンスの新しい枠組みを形づくることにもつながっています。

このように、地域ごとの柔軟な取り組みと、世界全体での統一したビジョンを両立させることこそが、私たちの最大の強みであり、最も大きな成果を生み出す源です。ネットワークの成功は、回収された廃棄物の量だけで測られるものではありません。変化を生み出した地域社会、育まれたリーダーたち、広がった持続可能な取り組み、そして世界が協力すれば何百万人もの人々を動かすことができるという確かな証――そのすべてが、私たちの成果です。

Let's Do It Worldはこれからも歩みを続けていきます。これまで活動を支えてくださったすべての方々――各国リーダー、チーム、アンバサダー、ボランティア、パートナーの皆さまに、心より感謝を申し上げます。皆さまの存在こそが、前向きな変化、世界的な連帯、そして持続可能な未来を実現する原動力となっています。

Let's Do It ネットワーク



北アメリカ
(2の国と地域)

カナダ、
アメリカ合衆国

西アジア
(17の国と地域)

アフガニスタン、アルメニア、アゼルバイジャン、
バーレーン、バングラデッシュ、インド、イラン、
カザフスタン、クウェート、キルギスタン、パキスタン、
パレスチナ自治区、カタール、サウジアラビア、
アラブ首長国連邦、ウズベキスタン、イエメン

ラテンアメリカ
および
カリブ海地域
(21の国と地域)

アルゼンチン、
バハマ、
ボリビア、
ブラジル、
コロンビア、
コスタリカ、
キュラソー、
ドミニカ共和国、
エクアドル、
エルサルバドル、
グアテマラ、
ハイチ、
マルティニーク、
メキシコ、
パナマ、
ペルー、
プエルトリコ、
スリナム、
トリニダード・トバゴ、
ウルグアイ、
ベネズエラ

ヨーロッパ
(41の国と地域)

オーランド諸島、アルバニア、
オーストリア、ベルギー、
ボスニア・ヘルツェゴビナ、
ブルガリア、クロアチア、
キプロス、チェコ共和国、
デンマーク、エストニア、
フェロー諸島、フィンランド、
フランス、ジョージア、
ドイツ、ギリシャ、
ハンガリー、アイスランド、
アイルランド、マン島、
イスラエル、イタリア、
コソボ、ラトビア、
リトアニア、ルクセンブルク、
モルドバ、モンテネグロ、
ポーランド、ポルトガル、
ルーマニア、スロバキア、
スロベニア、スペイン、
スウェーデン、スイス、
オランダ、トルコ、
ウクライナ、英国

アフリカ
(40の国と地域)

アルジェリア、アンゴラ、
ベナン、ブルキナファソ、
ブルンジ、カメルーン、
チャド、コンゴ、
コートジボワール、
コンゴ民主共和国、
エジプト、エチオピア、
ガボン、ガンビア、
ガーナ、ギニア、ケニア、
レソト、リベリア、
マダガスカル、マラウイ、
マリ、モーリシャス、
モロッコ、モザンビーク、
ナミビア、ニジェール、
ナイジェリア、ルワンダ、
サントメ・プリンシペ、
セネガル、シエラレオネ、
ソマリア、スーダン、
タンザニア、トーゴ、
チュニジア、ウガンダ、
ザンビア、ジンバブエ

オセアニア
(3の国と地域)

オーストラリア、
フィジー、
ミクロネシア連邦

アジア
(21の国と地域)

バングラデシュ、
ブータン、カンボジア、
中国、香港、
インドネシア、日本、
ラオス、マカオ、
マレーシア、
モルディブ、モンゴル、
ミャンマー、ネパール、
フィリピン、
シンガポール、韓国、
スリランカ、台湾、
タイ、ベトナム

受賞歴

Let's Do It Worldは、熱い志をもったリーダーやチームと共に、世界中のコミュニティで意義深い変化を起こし続けています。環境変革へのこの献身的な取り組みは、地域団体から国際機関に至るまで、広く認められています。

私たちは、世界中の仲間が受賞した数々の賞を誇りに思うとともに、たゆまぬ努力によってそれぞれのコミュニティに永続的な影響を与えてきたLDIW各国チームを称えます。

2023年、Let's Do It Worldは、国連SDGアクション・キャンペーンのフラッグシップ・イニシアチブである国連SDGアクション・アワードにおいて、権威あるモビライゼーション賞を受賞するという、画期的な節目を迎えました。このプログラムは、コミュニティを団結させ、鼓舞し、変革に向けて動員する活動とチェンジメーカーを称えるものです。世界190カ国から5,000件を超える応募の中から選ばれた、私たちのフラッグシップ・キャンペーンであるWorld Cleanup Dayは、数百万人規模の環境行動を結集させる実績ある活動として、際立った存在感を示しました。

2021年、Let's Do It Worldは国連ハビタット栄誉賞を受賞しました。これは、ネットワークの持続可能な都市開発と環境管理への並外れた貢献が認められたものです。

それ以前の2019年には、World Cleanup Dayがエネルギー・グローブ賞のファイナリストに選出され、環境活動への革新的なアプローチが評価されました。こうした国際的な称賛に加え、私たちは、全世界各国のチームが受賞した数々の地域・国での賞を深く評価しています。

自治体、環境団体、地域団体などからのこれらの表彰は、草の根レベルで実現されている具体的な変化を反映しています。それぞれの賞は、地球上のすべての生命のために、より清潔で健康的な世界を創造することに尽力する、ネットワークのリーダーとボランティアの計り知れない献身的な努力の賜物です。

これらの成果に貢献してくださったすべてのリーダー、ボランティア、そしてパートナーの皆様へ。皆様の仕事は重要であり、皆様の影響力は認められ、皆様の献身は、いかなる賞にも計り知れないほど大きな変化をもたらします。

World Cleanup Day の国連カレンダー登録認定

Let's Do It Worldが主催するWorld Cleanup Dayが国連公式カレンダーに登録認定されたことは、私たちのムーブメントにとって変革をもたらす画期的な出来事です。
国連認定記念日として2年目を迎えた今、この認定は私たちの影響力をさらに高め、私たちの活動の重要性を改めて証明しています。

この国連認定は、環境問題を世界的な議論の最前線に押し上げ、廃棄物管理と持続可能性を、気候変動対策から生物多様性の保護に至るまで、人類にとって最も差し迫った課題と同等に位置付けています。この登録認定によって私たちの取り組みにもたらされた正当性は、前例のない集団行動を促し、世界中の個人、コミュニティ、組織、そして政府に、意義のある変化へのコミットメントを促しています。

その影響は、単なる象徴的な登録認定にとどまりません。各国政府は、World Cleanup Dayの使命に沿った環境政策をますます重視し、廃棄物管理、リサイクル、汚染防止に関する効果的な法律を制定しています。認知度の向上は、クリーンアップ活動や環境教育への投資拡大を促し、これらの課題の緊急性に対する国民の意識向上につながります。

おそらく最も重要なのは、この国連認定が、政府、市民社会団体、そして企業が連携し、廃棄物汚染に対する革新的な解決策を生み出し、持続可能な慣行を推進する、セクターを超えたパートナーシップを促進することです。World Cleanup Dayは、草の根運動を強化し、地域社会が環境の守り手となるよう力づけ、市民が周囲の環境を守るよう促します。

World Cleanup Dayの認知度と普及率の高まりは、イベントの成功だけにとどまりません。環境責任への世界的なコミットメントが深まっていることを示しています。私たちの共通の経験から得られた知見は、意識向上へのアプローチに活かされ、今後の戦略におけるイノベーションを推進します。私たちは共に、地域社会と地球の両方に役立つ持続可能な慣行を推進し、環境管理が最も重要な地球規模の課題への取り組みに不可欠であることを確認しています。

Let's Do It Worldネットワークの皆様、特に過去7年間の献身的な活動が大きな役割を果たしてくださった各国のリーダーと本部チームの皆様に深く感謝申し上げます。資源の制約があるにもかかわらず、私たちの共通の決意は、粘り強さが変革をもたらすことを一貫して証明してきました。私たちの歩みは、この活動が不可欠であることを実証し、私たちのイニシアチブを拡大・強化するというコミットメントをさらに強固なものにしています。

国連カレンダーにWorld Cleanup Dayを組み込むにあたり、重要な役割を果たしたエストニア政府と、この重要なイニシアチブを揺るぎなく支援してきた国連ハビタットに、特別な感謝を申し上げます。

国連ハビタットのナレッジパートナーとして、Let's Do It WorldはWorld Cleanup Dayの活動への真にグローバルな参加を確保し、164か国のネットワークを結びつけることで、強力な集団的影響力を生み出しています。コールセンターとメディアセンターを備えたWorld Cleanup Dayの枠組みは、世界全体の進捗状況をリアルタイムで追跡するとともに、各国に環境イノベーションと持続可能性の成果を披露するプラットフォームを提供しています。

World Cleanup Dayは、世界の持続可能性に向けた行動にスポットライトを当て、世界中の参加国の環境リーダーシップを称える、ダイナミックな情報発信の場へと進化しました。この説得力のあるプレゼンテーションは、情報を提供し、コミュニティ主導の取り組みが持つ変革の力を示すとともに、各国が環境目標への献身を示し、より清潔で健全な地球を目指すこの運動に参加するよう促し、人々に刺激を与えます。

各国政府がWorld Cleanup Dayに参加することは、単に地域の廃棄物問題に取り組むだけでなく、世界的な運動に統合され、その努力を拡大し、国際的な舞台で持続可能な開発へのコミットメントを示すことにつながります。

World Cleanup Day 2025 結果

World Cleanup Dayは、190の国と地域から2,500万人という記録的な数の参加者を迎え、過去最高の参加者数を記録しました。World Cleanup Dayは、2年連続でこの記録を更新し、この成果に貢献した重要なトレンドを浮き彫りにするなど、目覚ましい成功を収めました。

この大きな数字の背後には、各国の勇気とコミュニティの力強い物語があります。紛争が続く中、ウクライナは暗い時代に団結と希望を示す行動として、25万5,000人を動員しました。ブラジルとドイツは、それぞれ92万人と67万2,000人の参加者と、両国で大きな参加者数を記録しました。一番最初に全国的なクリーンアップデーが開催されたエストニアでは、5万2,304人が参加し、「Let's Do It!」という志は今もなお息づいています。そして、ボランティア数が最も多かったのはメキシコで、550万人でした。

World Cleanup Dayは、世界人口の5%をクリーンアップ活動に動員し、社会全体の変化を生み出すことを目指しています。個人レベルでこの数値を達成した国々をご紹介します。

今年、これらの国々には、人口の6.81%が清掃活動に参加したカンボジア、13.65%のモザンビーク、8.09%で数年にわたり「5%」を達成したラトビア、そして13.71%という驚異的な数のキルギスタンが含まれています。

データを詳しく分析すると、持続可能な社会変革を求める私たちの呼びかけが、一般の人々だけでなく、特に政策立案者からも歓迎されていることを示す、心強い傾向が明らかになりました。Meltwaterによる国際メディアモニタリングによると、World Cleanup Dayは、様々なメディアを通じて24億回近くの視聴回数を記録し、ソーシャルメディアでのピックアップ数は前年比100%増加し、人々がクリーンアップだけでなく、ストーリーテリングや他者への啓発活動にも積極的に取り組んでいることが分かりました。

私たちは力を合わせ、より清潔で健康的、そしてごみのない地球の実現を目指す活動家として、大きな影響力を発揮しています。さあ、これらのトレンドを振り返り、World Cleanup Day 2025の主な成果を見てみましょう。

結果概要

参加者
2,500万人

190の
国と地域

国連
加盟国の
86%

顕著な結果を表した国・地域：2025年の参加者数上位10か国

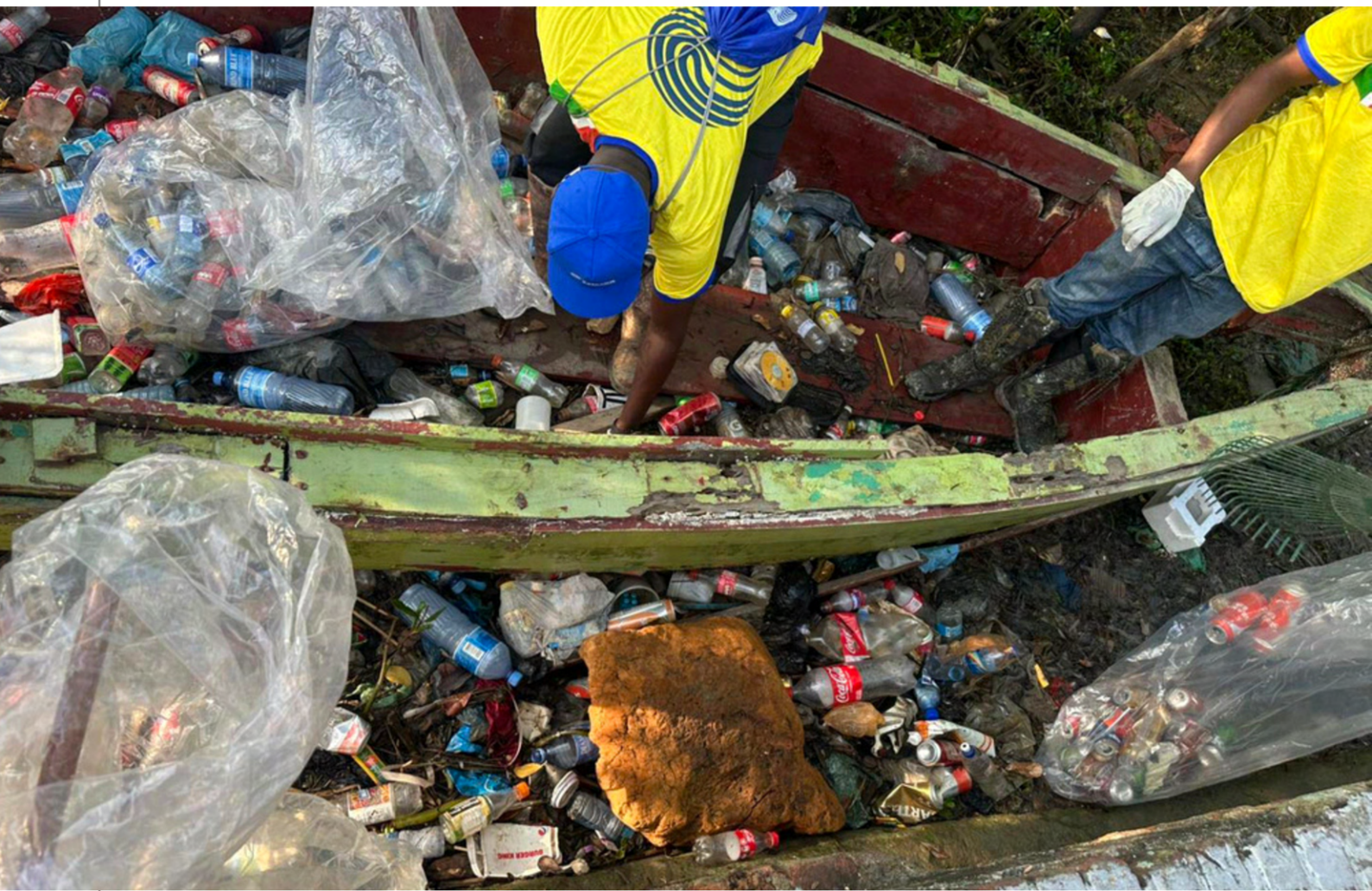
若い力

世界中で若者の関心が非常に高まり、World Cleanup Dayに参加する学校や若者が増えています。参加国の71%が、学校、幼稚園、その他の青少年団体と連携してクリーンアップ活動を行っています。特にモザンビークは顕著で、5,300校の若者を含む480万人がこの運動に参加し、合計7,610トンのごみを回収しました。

行政の取り組み

もう一つの重要な傾向として、世界各国でWorld Cleanup Dayに参画する地方自治体が増加していることが挙げられます。毎年、地方自治体の首長から環境大臣、さらには大統領に至るまで、より多くの政府関係者に、私たちの使命とメッセージに深く関心を寄せていただいています。

この活動への関与の広がりは、地域社会だけでなく、影響力の大きい意思決定機関においても、私たちの活動が広く認知されてきたことを示しています。政策立案者は、問題を認識するだけでなく、その解決に関与する必要があります。多くの国のネットワークリーダーは、廃棄物管理危機が深刻化する中で、法的拘束力のある政策の導入を政府に求めています。



ごみ - 地球の重荷を軽くしよう

World Cleanup Day 2025で報告されたごみの総回収量は、世界全体で164,499トンに達しました。この数字の多くは、各国のリーダーが提出した報告書から直接得られたものであることが重要なポイントです。

さらに、World Cleanup Dayの開催場所を追跡した結果、全世界で10,523 の市町村で103,645件のイベントが登録されていました。ビーチクリーン、タバコの吸い殻拾いキャンペーン、プラスチック回収キャンペーンなど、多くの貴重なイベントが開催されました。

Let’s Do It Worldファミリーに新しい国々が加わりました

私たちのムーブメントは、規模、エネルギー、影響力の面で拡大し続けています。World Cleanup Day 2025には、ソロモン諸島が初めて参加し、新たな節目を迎えました。

私たちの世界へのインパクトは大きく拡大しています。2018年にWorld Cleanup Dayを開始して以来、大きな進歩を遂げてきました。2018年から2025年にかけて開催された8回のWorld Cleanup Dayにおいて、私たちのボランティアネットワークは、国連加盟国の95%にあたる211の国と地域で87万2,000トンを超えるごみの除去に成功しました。これにより、世界人口の1.68%にあたる1億3,900万人以上が参加しました。

World Cleanup Day 2025のインパクト

World Cleanup Day 2025終了後も、各国リーダーは活動の成果に対して高い満足度を示しています。2026年にもクリーンアップ活動を実施する意気込みは、10点満点中平均8.59と高い水準を維持しており、前年の8.92とほぼ同じでした。一方で、ごみ汚染に対する社会の意識向上への影響についての評価は、過去2年間の 7.77から7.23とやや低下しました。それでも、88％のリーダーたちは、2026年9月20日のWorld Cleanup Day開催に強い意欲を示しています。

また、World Cleanup Day 2025の準備期間中のLet's Do It World本部からの支援の評価は7.32と前年よりやや低い結果となりました。支援のニーズとしては、2024年に多かった資金調達についてのアドバイスや戦略の代わりに、地元のパートナーとの連携に関するものが最も重要な支援項目として挙げられました。

このような各国リーダーからのフィードバックは、LDIW本部が目標達成に向けて、エネルギーやリソースを戦略的に配分する上で不可欠な示唆となります。

また、リーダーたちの報告によると、World Cleanup Dayへの参加者数、メディア報道、自主的なクリーンアップ行動、企業の参加、政府の関与など、さまざまな面で引き続き増加が見られています。

さらに、多くの国のリーダーはWorld Cleanup Dayだけでなく、年間を通じてさまざまな活動を実施しています。たとえば、学校や幼稚園での教育プログラム（参加国の71％）、地域コミュニティでの活動（52％）、企業との協働（50％）、ごみの分別やコンポスト（堆肥化）の取り組み（52％）、そのほかの活動（18％）などです。

このように、社会構造を根本から変えようとする絶え間ない意欲と、地域に根差した具体的な実践の積み重ねは、持続可能な解決策を実現するために欠かせない要素です。また、ごみ問題が社会に与える影響についての理解をさらに広げること、そしてこれらの課題に取り組むために分野を超えた連携を強化することの重要性も改めて認識されています。Let's Do It Worldは、世界各地で活動するリーダーのネットワークに感謝するとともに、今後もこうした協力関係を支え、発展させていくことに尽力していきます。

8年間8回のクリーンアップ活動とその効果

2018年以来、国連加盟国の95%を含む合計211の国と地域で、世界人口の1.68%に相当する1億3,900万人が参加し、ごみの量872,787トンを回収しました。

「5%」達成組

2018年以降、8か国が持続可能な変化に必要な転換点である人口の5%という目標を上回りました。

カンボジアは今年、人口の6.81%をクリーンアップ活動に参加させました。一貫して「5%」の活動率を維持しているラトビアは8.09%を動員し、モザンビークでは13.65%という驚異的な数字を達成しました。また、キルギスが今年、これまでで最も高い13.7%をクリーンアップ活動に参加させたことは注目すべきことでした。

2018-2025

参加者数
1億3,900万人

全世界人口の1.68%！

国連加盟国の95%にあたる211の国と地域が参加

87万トン超のごみを回収

年	参加者数	国と地域	国連加盟国の%
2025	2,500万人	190	86%
2024	2,320万人	191	87%
2023	1,910万人	198	90%
2022	1,480万人	190	86%
2021	860万人	191	85%
2020	890万人	166	77%
2019	2,120万人	180	83%
2018	1,800万人	157	76%

WCDネットワーク各国の注目のストーリー

以下のストーリーは、世界的な協働アクションの一端に過ぎません。各国・地域から紹介される事例は、協働の取り組みが大きな持続的な変化を生み出し、より深い環境意識を育み、地域の生態系と地球全体のより健康な未来を確かなものにしていくことを示しています。

モンゴル

モンゴルにおいて、World Cleanup Dayは単なる年次イベントではありません。それは共通の目的意識と希望を象徴しています。2025年、この決意は朝早くから1万人以上の若者が集結するという、本当に素晴らしい瞬間を生み出しました。この集団行動を目の当たりにしたチームは、未来の世代への希望に胸を膨らませ、深い感動を覚えました。

バングラデシュ

バングラデシュのLet's Do It Worldムーブメントは、環境課題に取り組むため、特にスラム街コミュニティに焦点を当てて生まれました。この取り組みは、ストーリーテリングやアートを通じたスラム街の子どもたちの参加にとどまらず、責任感や集団行動の重要性を教えています。彼らの参加は自信と帰属意識を育み、その貢献の意義を示しています。バングラデシュのリーダーは、World Cleanup Dayのために若者やコミュニティを動員したことがどれほど意義深かったかを語りました。クリーンアップ活動、若者同士の協働、啓発キャンペーンをリードする中で、この仕事がどれほど大きなインパクトをもつかを彼らは実感しました。

カンボジア

カンボジアは1,215,118人のボランティアを動員し、その精神を貫きました。8つの省庁と協力してWorld Cleanup Dayを開催し、リーダーが最も的確に表現した言葉は次の通りです。「カンボジアは常に積極的な参加者の一人であり、共に創り出す変化を目の当たりにしています！」カンボジアは川、湖、海のクリーンアップに最新技術を活用しています。

タイ

Let's Do It Thailandは、心のこもった小さな行動が持続的な変化を生み出すという信念のもと、ボランティアを巻き込んでいます。ボランティアたちは若者の参加支援、コミュニティの調整、地元の啓発プロジェクトを支え、環境管理の文化を育んでいます。

サントメ・プリンシペ

継続する課題があるにもかかわらず、サントメ・プリンシペのチームは、World Cleanup Dayが地域的にもグローバル的にも意義深いインパクトを生み出し続けているからこそ、強いモチベーションを保っています。毎回のキャンペーンは新たな経験、共有される知識、そして最も重要なのは、長期的な行動変容を促す子どもたちとの取り組みをもたらします。今後は、協働関係の強化と、特に若者向けの地元教育イニシアチブの拡大を目指します。

マレーシア

マレーシアのWCDカントリーリーダーは、集中力を維持しポジティブなマインドセットをもつことの重要性を強調しています。ムーブメントをリードするには勇気が必要であり、誰もが直ちにWorld Cleanup Dayの長期ビジョンを理解し共有するわけではないと述べています。それでもリーダーはモチベーションを維持し、全国的なクリーンアップ活動をより意義深く効果的に実施する方法を探求し続けています。今後の主要目標は、ごみ監査を強化し、汚染源の理解を深め、将来の活動を改善することです。

チャド

増大する課題とグローバルな資金調達の必要性があるにもかかわらず、チャドのWorld Cleanup Dayチームは揺るぎません。「私たちは決して途中でビジョンを捨てません」。ムーブメントへの強い信念に支えられ、彼らの目標はWorld Cleanup Dayの市民意識を高め、コミュニティがこのイニシアチブの主体となるようエンパワーすることです。

コロンビア

Toto Serrath（トト・セラース）が率いるVamos a Hacerlo Colombiaは、「ごみは再利用を待つ資源に過ぎず、最も良いごみは発生しないごみである」という信念を広めています。2018年以降、チームは350カ所以上でのクリーンアップ活動を組織し、12万人以上のボランティアを動員、5000トン以上のごみを回収し、そのうち3000トン以上のリサイクルに成功させました。コロンビアのリサイクルシステムを支える2万人の正規労働者と約6万人の非正規労働者が活躍するこの分野で、彼らの取り組みは責任感と資源回収の文化を拡大しています。

スロバキア

スロバキアのWCDチームは、クリーンアップの重要性とコミュニティにもたらすポジティブな影響に対するコミットメントを維持しています。この団体は毎年参加者の増加を促し、登録されたすべてのボランティアとチームが周辺環境をクリーンアップできるよう、十分な資金を確保することを目指しています。

ブータン

山岳王国であるブータンは、困難な地形、限られたインフラ、増加する観光によって廃棄物管理の課題に直面しています。ブータンのWorld Cleanup Day活動はSHE-Cycle Solution組織が主導しています。この取り組みは、同国の仏教的な環境管理の価値観と自然に一致しています。地元の寺院、学校、コミュニティ組織がクリーンアップ活動を環境責任の文化的なお祝いに変え、人々と自然との神聖な関係を象徴する巡礼路、観光地、水源に焦点を当てています。

ほぼ19年間、彼らは全国的な意識改革に取り組んできており、特に女性による目的意識の高いリーダーシップが本物の変革を促すことを証明してきました。彼らのビジョンは明確で意欲的です。ブータンを着実にごみゼロの2030年へと導くことです。

アルゼンチン

アルゼンチンチームは9年以上にわたりWCDネットワークの一員であり、カントリーリーダーは14年間すべてボランティアとして組織を率いてきました。彼らはムーブメントのインパクトをさらに拡大するため、より多くの時間を捧げたいという強い希望を表明しています。そのビジョンは、全省にわたるWCD活動の拡大と、全国で2万人以上の参加者を巻き込むことです。

アラブ首長国連邦

アラブ首長国連邦では、若者グループ『Pristine』がWorld Cleanup Dayを主導し、14カ所以上のビーチをクリーンアップしました！これは単なるごみ拾いを超え、思いやりと寛容のマインドセットを育む取り組みです。小さな親切な行動から他者を鼓舞する行動まで、クリーンな習慣と適切な廃棄物管理の構築が鍵です。2026年は、責任ある廃棄物処理と環境意識が日常生活の一部となる持続的な文化を育むことに注力します。

ガボン

ガボンはWorld Cleanup Dayを奉仕、コミットメント、ポジティブな変化のムーブメントとして捉えています。2026年の開催に向けて意欲を燃やすカントリーリーダーは、ボランティア精神とコミュニティリーダーシップの伝統を引き継ぎ、献身と情熱が社会を変革できることを示しています。市民社会への貢献で全国的に認められた彼らのリーダーシップは参加を呼び起こし、一人のコミットメントがコミュニティ全体をよりクリーンで明るい未来へと動員できることを証明しています。

ケニア

Christine Sayo（クリスティン・サヨ）が率いるLet's Do It Kenyaは、「Mazingira Yetu ni Jukumu Letu（私たちの環境は私たちの責任）」というメッセージを掲げ、環境を守ることは誰の責任であるかを訴えています。

2018年以降、チームは全国で10万人以上の市民を動員し、30万kgのごみを回収しました。この取り組みは、Michuki Parkでのエストニア大統領とのクリーンアップや、ケニアの環境リーダーたちのエストニア訪問交流など、国際的な注目を集めました。都市化が進行し廃棄物システムが逼迫する中、この団体のコミュニティ主導モデルは実際的かつ拡張可能な解決策を提供しています。

スペイン

揺るぎない献身と強化されたリソースにより、Let's Do It SpainはWorld Cleanup Dayの可能性を最大限に引き出し、全国的な持続的変化を育もうとしています。メディア露出の拡大、ボランティアや団体の参加促進、機関や企業とのパートナーシップにより、全省・全地域の主要都市でのクリーンアップを実現することを目指しています。環境教育の緊急性を認識し、数千人にごみの影響を理解させ、より健康な地球のための解決策を受け入れてもらうよう促しています。

オーストラリア

Clean Up AustraliaとNo More Buttsは、ボランティア動員と全国的なクリーンアップ強化により、Let's Do It Worldの活動支援を続けていることを誇りに思います。World Cleanup Dayの参加者は毎年増加していますが、同団体は主に3月の大成功を収める主力イベント「Clean Up Australia Day」に注力しています。また、地元の環境アクションをさらに拡大するため、講演の機会や知識共有の可能性も積極的に模索しています。

エクアドル

エクアドルチームは、グローバルな環境ムーブメントの力を深く信じており、その活動が世界に示せる重要な場と捉えています。年間を通じて継続的に実施してきたビーチクリーンアップの経験が原動力であり、この重要な国際的取り組みに貴重なデータと洞察を提供することを誇りに思います。最大の目標は、市民科学を通じてプラスチック汚染とその影響をコミュニティに教育し、全国的な意識を実際の行動へと変えることです。

ウガンダ

ウガンダのWCDカントリーリーダーは、グローバルなWorld Cleanup Dayムーブメントの一員であることに深い誇りをもち、アフリカ全域での環境アクションにより強力でインパクトのある未来を展望しています。最終目標は、不適切な廃棄物処理と使い捨てプラスチックの課題に対処し、将来の世代のためのよりクリーンで健康的、持続可能なウガンダを築くことです。

ルクセンブルク

Clean Something for Nothingは、ごみゼロの地球というビジョンにコミットし、環境を美しくより住みやすいものにするクリーンアップを通じて社会を結束させることを目指しています。同団体はムーブメントの継続性を確保するための持続可能な資金調達を重視しつつ、コスト意識も維持しています。地元自治体が独自のクリーンアップを実施し市民参加を促すよう奨励しており、毎年恒例の春の「Grouss Botz」クリーンアップなどのイベントを基盤にしています。

ブルガリア

bTV Media Groupは、ブルガリアで最も信頼され影響力のあるメディアプラットフォームの一つです。社会的ブランドThe Good Exampleを通じて、同社は環境擁護の全国リーダーとなり、数年にわたり340万人以上をクリーンアップと持続可能性イニシアチブに動員してきました。ストーリーテリング、調査報道、コミュニティ主導のキャンペーンを通じて世論を形成しています。その活動は、メディアが意識と行動をつなぐ架け橋となり、環境責任を現代メディアリーダーシップの中核的柱に位置づける方法を示しています。

モザンビーク

モザンビークは今年、ボランティア数でトップ3に入り、驚異的に人口の13.65%がクリーンアップに参加しました！目標は若者の活性化とコミュニティ参加にあり、数千の学校がWorld Cleanup Dayだけでなく年間を通じてクリーンアップに参加しています。

課題があるにもかかわらず、草の根環境ムーブメントは驚くべき勢いを増しています。2018年以降、Repensarが率いるLet's Do It Mozambiqueは全国で数百万人の動員に成功しました。パンデミック中でも2021年には20万人以上が参加し、2022年と2023年にはそれぞれ250万人、325万人へと成長——すべての学校、コミュニティ、機関が関与しました。2023年には世界一のボランティア参加率とエンゲージメントを記録。WCDは環境アクションと市民意識の触媒となり、現在では非公式環境教育において重要な役割を果たしています。

プエルトリコ

プエルトリコは新たなエネルギーと意欲をもってWorld Cleanup Dayの未来に踏み出しています。今年、WCDチームはグローバル企業チームを共通の環境目的で結束させるという力強いマイルストーンを達成しました。その核心にあるビジョンは時代を超えた心温まるものです。将来の世代のためにプエルトリコの自然美を守り、島を故郷とするすべての人に、持続的な思いやり、誇り、環境責任の意識を目覚めさせることです。

キルギス

キルギスは100万人のボランティアを集め、その進展は感動的です。WCDカントリーリーダーは次のように語りました。「学校での分別ごみ収集の経験を共有できて嬉しいです。私たちは『Zher Ene（母なる地球）』プロジェクトを実施しました。」本物のシステム、本物の教育、本物のインパクトです。

モロッコ

モロッコのWCDチームは大胆な使命に突き動かされています。すべての地域アクションを全国的な意識へと変えること。現場での取り組みはすでにごみの可視化を進め、重要な対話を生み出し、学校、地域、自治体で意義深い成果を認められています。2026年に向けて、国連ハビタット、国連開発計画、世界銀行、EU、民間団体などのパートナー支援を受けながらインパクト拡大に意欲を燃やしています。全国的な行動変容を促すビジョンは、「発生源でのごみの分別奨励」「地元循環型経済イニシアチブ推進」「学校・企業参加促進」「強固な協働構築」です。

イタリア

Let's Do It Italyは全国で積極的な市民参加と環境サステナビリティを推進し、ボランティア、学校、公的機関、企業を参加的かつ再現可能なモデルで巻き込んでいます。ソーシャルイノベーションラボであるSustainability Hubを通じて、活動的なコミュニティを育み、成功事例を交換し、サステナビリティのための全国ネットワークを構築しています。今年の参加者数でトップ10に入り、38万人以上を動員しました。

グアテマラ

グアテマラは7年連続でWorld Cleanup Dayに積極的に参加し、ボランティアの間で強固な認知と信頼を築いてきました。カントリーチームは、ごみが共有責任であるという信念のもと、持続性と楽観主義で参加を促進し続けています。彼らのメッセージは明確です。決して諦めないでください。環境アクションにはすべての国からの反省、協働、コミットメントが必要です。

ウクライナ

ウクライナのWorld Cleanup Dayは決して止まりませんでした。国家の回復力と環境コミットメントの強力な象徴として浮上しました。2024年、全面戦争の中、40万4121人が参加し、国内最大の社会エコイニシアチブとなり、忍耐のグローバルな模範となりました。2021年から2024年にかけ、110万人以上が12万トン以上のごみを回収。クリーンアップ活動は前線近くでも、癒し、エコボランティア、教育のツールとなっています。ウクライナはヨーロッパのWorld Cleanup Day参加上位国であり、戦時下でも卓越した市民参加を示しています。このイニシアチブは単純なごみ収集から、教育、心理的支援、コミュニティ再建を含む多面的なムーブメントへと進化しました。地元リーダーは比較的安全な地域でクリーンアップを組織し、環境アクションと人道支援をしばしば組み合わせています。

スイス

スイスのカントリーリーダーは、コミュニティを鼓舞し、環境アクションにコミットするすべての人に実践的なリソースを提供することに情熱を注いでいます。ウェブサイトコンテンツの強化などにより、アクセシビリティと明瞭性を向上させています。

エジプト

エジプトはグローバルなWorld Cleanup Dayムーブメントの一員であることを誇りに思い、クリーンアップ活動をインパクトある環境イニシアチブへと変革しています。焦点は全国キャンペーン拡大にあり、個人努力を近隣からナイル川、沿岸地域に至るコミュニティ全体の目に見える変化へと変えます。すべての年齢・背景の人々を共通目的で結束させるクリーンアップの力を知り、すべての行動を持続可能な未来への一歩と見ています。

ウルグアイ

ウルグアイは、安全、親切、個人責任を育むビジョンでWorld Cleanup Dayを受け入れ、人々が環境を大切にし、他者を助ける喜びを見出せるよう促しています。人々の善性を信じる動機で、環境保護という共通目的でボランティアを結束させ、意識を広め、思いやり、尊敬、集団行動の文化を築き続けています。

ミャンマー

ミャンマーの焦点は、単純な個人行動をより広範な市民意識へと変えることです。World Cleanup Day 2025で築かれたワークショップ、アウトリーチ、現場クリーンアップの勢いは全国的なムーブメントの好奇心と可視性を呼び起こしました。その高まる関心が2026年のモチベーションとなり、さらに多くの若者の参加を期待しています。

国連ハビタットと密接に協力し、今後は環境意識拡大、地元コミュニティとの深い連携、すべての行動を長期改善に貢献させることを目指します。温かさと連帯感を込め、グローバルファミリーへのコミットメントを反映した最終メッセージ：Let's Do It Worldへの感謝と、今後の仕事で団結し続ける約束です。

フランス

World Cleanup Day Franceは、地球保護が共有責任であり、喜びと集団エネルギーが環境アクションを強力な力に変えるという信念を掲げています。2018年以降、World Cleanup Day France チームはクリーンアップを活気あるコミュニティイベントに変え、全国の個人、学校、団体、自治体、企業を巻き込んでいます。その努力で120万人の参加者を動員し、全国的な環境意識の高まりを反映しています。

カタール

カタールの主要な草の根イニシアチブはプラスチック汚染に対抗し、年間を通じて市民教育を行っています。毎年数千人の学生とボランティアが参加し、環境責任と意識向上を促進しています。目標はコミュニティをエンパワーし、持続可能な実践を育むことです。

イギリス

The Skill Millは環境教育に注力し、司法制度に関わる若者を屋外作業とトレーニングで巻き込み、地域コミュニティにも貢献しています。この団体は今後さらに多くの人々、団体、政府パートナーを巻き込み、より大きなインパクトを目指す強い意欲をもっています。長期目標「Strive for Five（5%への挑戦）」は、2030年までにイギリス人口の5%を環境アクションに動員することです。

ザンビア

ザンビアはグローバルなWorld Cleanup Dayムーブメントの一員であることを誇りに思います。そのインパクトは大きく、コミュニティや団体のステークホルダーが連携を求め、この仕事の重要性を認識しています。ボランティアとリーダーはNGOの励ましとフィードバックを力に、環境変革への共通コミットメントを推進しています。今後のビジョンは意識転換を促し、すべての市民がザンビアの土地と資源を守ることを誇りに思う文化を育むことです。

アイスランド

The Blue Armyはアイスランドで広く知られる存在となり、全国のコミュニティが自らの自治体で行動を起こすインスピレーションを与えています。30年前に設立されたこのムーブメントは、個人の深い献身とアイスランドの自然環境保護への揺るぎないコミットメントによって支えられています。Let's Do It Worldネットワークの一員であることは、チームにとって名誉であり、長く続くインスピレーションの源です。

キプロス

Together CyprusとIleana Nicholson（イレアナ・ニコルソン）が率いるLet's Do It! Cyprusは、スローガン#stoxerisou（#inyourhand）の精神——より良い世界をつくるのは誰の責任か、を体現し続けています。ニコシアでは、このイニシアチブが環境アクションが政治的分断を超えてコミュニティを結束させる力強い例となっています。

World Cleanup Dayはギリシャ系キプロス人とトルコ系キプロス人のボランティアを結束させ共有スペースをクリーンアップし、環境への思いやりが国境を越えることを証明しています。クリーンアップ、共有ガーデン、教育ワークショップなどの活動を通じ、サステナビリティを促進しつつコミュニティ間対話の場を創出しています。地域環境アクションが生態系回復と長期平和構築を支えるモデルケースです。

フェロー諸島

フェロー諸島はWorld Cleanup Dayに参加することを誇りに思い、国全体のクリーンアップにできる限り多くの人々を巻き込むことを目指しています。市民の関心が高まり、地元ラジオが積極的に支援しています。

ルーマニア

ルーマニアは、より多くの行政機関と若者をWorld Cleanup Dayムーブメントの中心に引き込むことを目指しています。勢いは強く、ボランティアは年々エネルギッシュになり、再び貢献する準備ができています。彼らの熱意が2026年のモチベーションとなり、協働、責任、若者参加が持続的な環境インパクトを生むコミュニティを築きます。

カメルーン

LDI Cameroonは8年以上の環境アクションで大きなインパクトを生み出しました。「Turning Waste into Wealth（ごみを価値に）」の目標に導かれ、全国でよりクリーンなコミュニティと持続可能な実践を鼓舞し続けています。

インドネシア

インドネシアは480万人のボランティアで強力な存在感を示し、若者が立ち上がると本当の変化が始まることを改めて証明しました。成功の背景には特に環境省との強固な政府パートナーシップがあり、多様な群島国家全土——都市部のジャワから遠隔沿岸コミュニティまで——に活動を広げました。クリーンアップを超えた包括的な教育重視が特徴です。全国の学校に環境カリキュラムを導入し、エコ酵素製造、体系的ごみ分別、独自の「waste-for-seeds（ごみを種に）」交換など革新的プログラムを実施、ごみ削減と植林を結びつけています。

トルコ

Cengiz Kasak（ジェンギズ・カサク）が率いるLet's Do It! Türkiyeは、よりクリーンで住みやすい世界は集団行動によってのみ実現すると信じています。2012年以降、このムーブメントは数万人のボランティアを動員し、ごみ収集にとどまらず市民意識と共有責任感を育んできました。World Cleanup Dayだけでも26万人以上が参加し、全国で優れた廃棄物収集システムと環境教育プログラムを促しています。

チェコ共和国

World Cleanup Day Czech Republicはできる限り多くの人々とパートナーを動員し、イベントを意義深い全国市民アクションへと発展させることを目指しています。収集データと社会的注目を活用し、ごみ・散乱ごみ課題の長期解決を提言します。2025年は河川敷と水路クリーンアップに注力し、最も活発なグループに持続可能な暮らしを支えるエコアイテムを報奨として贈りました。

フィリピン

フィリピンは2025年だけで125万人のボランティアを集め、国家目標は明確です。「きれいな空気とごみゼロの環境を実現すること」。政府との一貫したパートナーシップにより、この驚異的な数字を達成しました。

ベトナム

「共に成し遂げたことに大変感動しています！World Cleanup Dayのために時間とエネルギーを捧げるすべてのボランティアは真のヒーローです。道が険しくてもこの勢いを続けましょう！」
——Tu Nguyen（トゥ・グエン）、ベトナムのWCDリーダー

ウズベキスタン

ウズベキスタンはWorld Cleanup Dayで全国的な強い参加を示し、国全体で展開しました。特に電力アクセスが限られるなど追加課題を抱える西部地域に特別注力。ウズベキスタンのWorld Cleanup Dayは政府機関が主導しています。WCDでのコミットメントは、どの地域も取り残さない包括的なクリーンアップの重要性を強調します。

香港

5回の台風で複数のクリーンアップ日が延期された年にもかかわらず、ムーブメントは成長を続け、多くの新ボランティアとコミュニティグループが立ち上がりました。香港は人口の5%参加、データ追跡強化、発生源でのごみ削減意識向上という野心的な目標で前進します。

バハマ

バハマの進展は、地元事情と政治的複雑さで調整が難しく課題が多いです。それでもカントリーリーダーの献身は揺るがず、年々全力でムーブメントを前進させています。障害にもかかわらず、忍耐の精神は続き、より強固な協働と共有責任で課題を克服し、よりクリーンで結束した未来を築けると信じています。

エストニア

エストニアのWorld Cleanup Day活動は主に若者主導で、参加者の約90%が学校・幼稚園の子どもたちで、教師の指導を受けています。毎年人口の4〜5%が参加する高い市民関与を維持。各回のクリーンアップは過剰消費、利便性文化、不適切な廃棄物管理から生じる特定課題——マイクロプラスチック、タバコの吸い殻、使い捨ての墓地のろうそく、健全なバルト海——に焦点を当てています。

日本

日本では、境界線を超えた強力な変化の波を生むのは結束した小さな行動という信念でWorld Cleanup Dayが推進されました。企業と地元コミュニティの広範な協働で強い参加を実現。特筆すべきは2025年に行政の支援が増え、日本政府がWorld Cleanup Dayを後援し始めたことで、全国的認知と長期インパクトへの重要な一歩となりました。

リベリア

Let's Do It Liberiaは全国的な環境意識とアクション拡大に取り組んでいます。ボランティアは物流課題や政府支援不足に直面しますが、地元コミュニティとFrench Business Club、欧州連合などのパートナーがイニシアチブの成功に貢献しています。この団体は若手環境活動家を独立して活動できる構造を構築し、継続性を確保しています。

タンザニア

Nipe Fagioは協働、イノベーション、若者参加を通じて持続的な環境変化を推進しています。タンザニア全土で自治体から地元グループまでが、単日ではなく継続的なクリーンアップに積極参加。発生源での散乱ごみ対策、強固な環境政策提言、日々のごみ削減のための体系的廃棄物管理を促進します。市民をエンパワーして環境インパクト追跡により、行動と教育を組み合わせたムーブメントを生み、よりクリーンでヘルシーなタンザニアを築いています。

ベナン

ベナンではWorld Cleanup Day活動がコミュニティレベルで実施され、3つの地元チームが村落でのクリーンアップを組織しました。政府投資の少なさと環境問題への制度的関心の低さにもかかわらず、地元ボランティアは強いコミットメントを示し、地球はクリーンであるべきという信念に突き動かされています。

スリランカ

スリランカチームはWorld Cleanup Dayの使命に強くコミットし、アジアで最もクリーンな国を実現するという長期ビジョンを掲げています。World Cleanup Day 2025の参加は限られたリソース下でも現場インパクトを生み、集団行動の重要性を強化しました。さまざまな課題にもかかわらず、地元成果とコミュニティ参加がモチベーションを高めています。

キュラソー

キュラソーはグローバルWorld Cleanup Dayムーブメントで輝き続け、コミュニティ努力を環境変化へと変えています。住民1人あたり最多ごみ回収や世界最大水中クリーンアップなどの過去実績が誇りとモチベーションの源で、島全体でクリーンアップは不可欠です。揺るがないボランティアの献身がすべてのクリーンアップを意識、結束、コミュニティ回復力に変え、2026年の大胆ビジョン「持続習慣が根付きクリーンアップ不要なキュラソー」を後押ししています。

ラトビア

ラトビアはボランティア献身の輝く例で、今年15万人以上が結束し、Let's Do It Worldネットワークで9年以上継続的に熱意ある参加を記録しました。このキャンペーンは2008年のバルト諸国初全国イベントから始まるクリーンアップの歴史を基盤とします。現在、ラトビアは春のLielā Talkaと秋のWorld Cleanup Dayの2大全国イベントを開催。収集ごみ量が半減したのは、ポジティブな行動・文化変化の兆しです。この小国で71万3000人以上がクリーンアップに参加してきました。

ボリビア

ボリビアの目標は、行動を通じて人々に路上ごみ投棄の害を理解してもらうことです。今年の結果によると、より強い参加が必要ですが、社会課題が事前準備を乱すことが多いです。持続的意識の創出、コミュニティ責任の強化、よりクリーンで意識高いボリビア構築への欲求が原動力です。

ルワンダ

Let's Do It Rwandaは学生・若者から商店主・子連れ母親まで多様な参加者を動員し、包括的なコミュニティ参加を示しました。活動は楽しく環境意識を育む設計で、学校・地元コミュニティから好反応。強固な地区チーム構築、UN Rwanda・環境省などパートナー連携、未来環境リーダー育成を目指します。

「LDIWカントリーリーダーとしての仕事は極めてインパクトがあり意義深いと感じます。ボランティア動員、環境問題意識向上、コミュニティ参加が目的意識を与えてくれます」
——ルワンダのWorld Cleanup Dayカントリーリーダー

イラン

イランのWorld Cleanup Dayカントリーリーダーは、ネットワーク参加9年以上経ってもムーブメントが意義深い社会変化の強力な力であると語ります。最も誇らしい成果は、キャンペーンが地元環境グループ・NGOに年間を通じた独自イニシアチブを促し、国内環境ムーブメントを内側から強化したことです。

今年は自治体が直接協働し、収集ごみを直ちに埋立地へ輸送。今後の主目標は国民の5%参加率達成です。

台湾

台湾のWorld Cleanup Dayは効果的なコミュニティ動員と環境管理の好例です。2018年以降、Let's Do It Taiwanはビーチクリーンアップ、学校イニシアチブ、コミュニティ衛生、デジタルごみ削減で行動と支援を組み合わせています。年次テーマ——生物多様性、持続可能海洋、ごみゼロ暮らし、ネットゼロ変革——が地元努力をグローバル目標に向かわせ、7万人以上が参加し、250トン以上のごみを除去しました。

アメリカ合衆国

アメリカ合衆国は今年150万人のボランティアを集めました。多くの地域で散乱ごみが減少しはじめ、実際的で測定可能な進展を示しています。小さなステップが積み重なり大きな変化を生む完璧な例です。

コソボ

コソボのリーダーは明確に述べました。World Cleanup Dayはボランティア動員と機関の環境保護を本気にさせる強力ツールです。焦点は廃棄物管理変革と本物の循環型経済への移行。理論ではなく行動に基づく転換です。

パナマ

パナマは環境アクションを人々・地球への思いやり、結束、愛の表現に変えています。2025年、全国で1万350人以上のボランティアが参加し、集団行動の力を示し、地元環境に持続的・目に見えるインパクトを残しました。この勢いを基に、Let's Do It Panamaは参加拡大と沿岸・農村部への新コミュニティ到達を目指し、環境管理、市民達の誇り、未来世代への希望を育むムーブメントを推進します。

ハイチ

ハイチのリーダーシップはグローバルLet's Do It Worldコミュニティで誇り高く立ち、困難時でも意義深い変化が可能という揺るぎない信念をもっています。深刻な環境・治安課題の中でも2026年へのモチベーションは強く、長期目標はコミュニティに責任ある廃棄物管理の持続習慣を築き、公的空間の尊厳回復とハイチへの実際的改善をもたらすことです。

ジョージア

World Cleanup Day Georgiaは地元住民に汚染地域を原状に取り戻す力を与え、感染リスクの低減と影響コミュニティの生活条件の向上を実現します。無許可ダンプサイトを安全空間に変え、緊急公衆衛生課題に対処してきました。

しかし、この運動は環境保全にとどまらず、ジョージアの自然遺産に対する多数の責任感を育む、根本的な意識改革を象徴するものです。Let`s Do It Geogiaは、継続的な活動と地域社会の参加を通して、環境保全を社会の重要＆根本的な価値観として確立していきます。

クウェート

クウェートでは自治体、ボランティア、地元コミュニティの協働が驚異的な熱意とよりクリーン・健康的な環境への深いコミットメントを生み出しました。

現場アクションを超え、クウェートはグローバルムーブメントに創造的に貢献しています。World Cleanup Dayカントリーリーダーはデザイン・ブランディングの独自強みを強調しました。「私たちのチームはWorld Cleanup Dayグッズデザインを開発し、他の国々と共有することを誇りに思います。現地印刷・販売でクリーンアップ資材資金とWorld Cleanup Day活動を支援できます。視覚的なコミュニケーション・啓発キャンペーンデザインの専門性を提供してグローバルWCDネットワークをエンパワーしたいです。」

スリナム

スリナムのWorld Cleanup Dayムーブメントは年々勢いを増しています。今後の主目標は政府機関・社会団体のより強い関与を確保することです。広範支援で到達範囲拡大、全地区を全国クリーンアップ努力に巻き込みます。

メキシコ

World Cleanup Day Mexicoはこうした課題に対する強力な対応策として台頭してきました。7年以上にわたり、全国支援を集め、毎年数百万人が参加。7年連続World Cleanup Dayで学校、企業、大学、政府機関がクリーンアップと環境保護意識向上の集団任務で結束しました。

この取り組みは革新的なリサイクルキャンペーンも展開し、特に注目すべきは1300万本以上のタバコの吸い殻の回収で、推定6億5000万リットルの水汚染を防止したことです。これは「World Cleanup Day」の旗印のもとで実施されたメキシコ史上最大規模のリサイクルキャンペーンの一つです。このムーブメントの成功は、特に若年層を中心に高まるメキシコの環境意識を反映しており、彼らは国内の廃棄物危機に対する持続可能な解決策をますます強く求めています。

そして今年、メキシコは驚異的な成果を達成！500万人以上のボランティアがWorld Cleanup Dayに参加、世界最大動員を記録しました！

17:49:19:01
Z15
XAVC 1080/50p 50
F4.0

グローバルプロジェクトとキャンペーン

世界各地で環境への取り組みがさまざまな形で展開されています。教室での学びを変革する教育プログラムから、目には見えにくいデジタルごみの問題に取り組む活動まで、革新的な取り組みが次々と生まれています。これらのプロジェクトは、環境への前向きな変化が地域レベルでも世界規模でも実現できることを示しています。同時に、教育、テクノロジー、そして人々の協働が、より持続可能な未来を形づくる大きな力となっていることを伝えています。

LDIWのWorld Cleanup Day インパクト写真展

「World Cleanup Dayインパクト写真展」は、Let's Do It World（LDIW）代表兼CEOヘイディ・ソルバの発案・主導により企画され、タリン市都市環境・公共事業局の協力のもと、2026年6月12日にエストニア外務省で開催しました。World Cleanup Day発祥の地であるエストニアでは、国内4つの主要イベントで展示が行われ、約40万人が来場しました。

この写真展では、World Cleanup Dayが一年に１回の行動から始まった取り組みが、いかに広がり、影響を与えたかを紹介しています。LDIWの164か国のネットワークのうち22か国で、年間を通じたサステナブルプロジェクトへと発展していきました。展示では、コミュニティガーデンの創設、リサイクルプログラム、環境教育キャンペーン、政策の変化など、クリーンアップ活動の後も続く環境の取り組みを、8年にわたる記録として紹介しています。

これらの写真は、World Cleanup Dayへの参加が継続的な環境保全活動のきっかけとなってきたことを示しています。2018年以来、このムーブメントに世界で1億3,900万人以上が参加し、87万2,000トンを超えるごみを回収しました。また2024年には、国連の国際デーカレンダーにも登録されました。この写真展は2026年から国際巡回を開始し、4月7日に欧州議会で開幕しました。欧州議会議員やLDIWヨーロッパ地域のリーダーが参加し、その後も今後2年間にわたり、世界各地の主要な国際会場で開催される予定です。

集団で行う活動が生み出す効果を視覚的に紹介するこの写真展では、LDIWが掲げる「世界人口の5%の参加」という目標を紹介しています。これは、世界が緊急に必要としている社会的変化を推進するために必要な重要な転換点であり、コミュニティが共通の目的のために団結すれば、変革は可能になることを証明しています。

さらに詳しくは：LDIW's World Cleanup Day Impact Photo Exhibition Embarks on World Tour

2025 ゼロ・ウェイストフォーラム

ゼロ・ウェイストフォーラムは、2025年3月30日から4月3日にかけて、米国フロリダ州ハリウッドにおいて開催されました。本フォーラムは、国連が定めた「ゼロ・ウェイスト国際デー」を基盤として実施されたもので、Let's Do It World からはウクライナのリーダー、ユリア・マルケル氏と、オセアニア地域ディレクターのパル・マルテンソン氏が参加しました。

フォーラム期間中、LDIWのリーダーたちは、マイクロプラスチック研究者サミ・ロマニック博士とともにビーチクリーンアップ活動に参加しました。また、アン・コルブ・ネイチャー・センターで行われたメインカンファレンスでは、二つの主要セッションに登壇しました。ユリア・マルケル氏は、ウクライナ戦争下における環境行動をテーマに講演を行い、安全上のリスクや戦争によって生じる廃棄物など、ウクライナが直面する課題について説明しました。そのうえで、「市民の精神と環境への責任を止めることはできない」と強調しました。一方、パル・マルテンソン氏は、デジタルごみに関するセッションを担当し、デジタルを活用する行動がどのように温室効果ガス排出につながるのかを解説しました。参加者の多くが、自らのデジタル活用による環境負荷について「これまで全く知らなかった」と驚きを示しました。

アースデイの代表者やさまざまなパートナー団体とともに参加したLDIWの活動は、草の根のクリーンアップ活動から政策提言、教育キャンペーンに至るまで、物理的なごみとデジタル汚染の双方において、ゼロごみの取り組みをつなぐネットワークとしての役割を示すものとなりました。

さらに詳しくは：The 2025 Zero Waste Forum: A Week of Learning, Action , and Inspiration

タンザニアでのSEEP

持続可能な環境教育プログラム（Sustainable Environmental Education Program /SEEP）は、デジタルツールを学校教育に取り入れることで、タンザニアにおける環境教育の向上を目指す取り組みです。本プログラムは、Nipe Fagioと Let's Do It World が主導し、持続可能性についての理解を深めるとともに、デジタル教材の活用を通じて、将来の環境リーダーを育成することを目的としています。また、教育現場におけるデジタル格差の解消にも貢献しています。約1年半にわたる活動を経て、本プロジェクトはこのたび一区切りを迎えました。

デジタル環境教育は、授業をより実践的で魅力的なものにし、学習の質を高めています。環境クラブの活動や地域でのクリーンアップなどを通じて、生徒たちは学んだ知識を実際の行動に結びつけ、環境に対する責任感を育んでいます。また、SEEPのようなプログラムは、学校にデジタル機器や研修の機会を提供することで、デジタル格差の解消にも寄与しています。その結果、生徒たちはより積極的に学びに参加し、環境意識を高めながら、将来のリーダーとしての力を育んでいます。

2025年2月27日には、ダルエスサラーム大学（UDSM）図書館において、「SEEPタンザニア・アワード2025」が開催されました。2024／2025年度の最優秀学校プロジェクト賞では、ザナキ中等学校が第1位を受賞し、第2位はユスフ・マカンバ中等学校、第3位はマコカ中等学校がそれぞれ受賞しました。

環境教育とテクノロジーを組み合わせた取り組みは、タンザニアが持続可能な発展を目指すうえで重要な役割を果たしています。Nipe Fagioの活動は、環境教育と持続可能性の向上に取り組む教育省や関係機関にとっても、優れたモデルとなっています（Tajaeli Masaki）。

なお、本プログラムは、Centre for Environmental Investments SA および Environmental Investment Centre の支援を受けて実施されました。

さらに詳しくは：WCD SEEP Transforms Environmental Education in Tanzania

Digital Cleanup Day 2025

2025年は、デジタル・クリーンアップ・デー（Digital Cleanup Day／DCD）の創設から5周年にあたります。Let's Do It Worldによって立ち上げられたこの取り組みは、私たちのデジタル活動が生み出すデジタル二酸化炭素排出量への理解を広げることを目的としています。不要な写真やメールの削除、不要なニュースレターの配信停止などを通じて、不要なデジタルデータを整理する行動を呼びかけています。

Let's Do It Worldスロベニアのリーダーであり、2025年のDigital Cleanup Dayキャンペーンを率いたJaka Krankjc氏によると、保存されているデータの約80%は一度しかアクセスされておらず、多くのデータが実際にはほとんど価値をもたないまま保管されているといいます。こうした問題への認識は徐々に広がっており、欧州連合（EU）でもICT（情報通信技術）をより環境に配慮した形へと転換する必要性への関心が高まっています。Jaka Krankjc氏は、その大きな要因の一つとして「過剰なデジタル化」を挙げ、ICT分野の脱炭素化を進めるためには、すべての人が行動を起こすことが重要であると強調しています。

今年の結果では、約230万ギガバイトの不要なデータが削除され、年間で575トンのCO_2排出削減につながりました。また、61の国と地域から54万1,800人以上が参加しました。最も大きな成果を挙げた国はフランスで、約99万キログラムの削除が報告されています。昨年と比べて参加者数はやや減少したものの、その成果は非常に大きく、デジタルの持続可能性に関する意識を世界中に広げることに成功しました。

デジタル・クリーンアップ・デーの開始から5年間で、170万人以上がこの取り組みに参加し、合計で数百万ギガバイトに及ぶデジタルごみが削減されました。参加者数が多かった国は、ウクライナ、ベルギー、インド、ブラジル、日本です。一方、データ削除量で大きな成果を挙げた国には、インド、ネパール、カナダ、ブラジル、パキスタンが挙げられます。2025年には、国連加盟国の32%がこの取り組みに参加し、運動の世界的な広がりを示しました。私たちの生活がますますデジタル化するなかで、目に見えないデジタルごみを減らすことは、現実のごみを減らすことと同じくらい重要です。

さらに詳しくは： Digital Waste - The Hidden Pollution We're All Creating

D-グリーンプロジェクト：中小企業向けデジタルサステナビリティ

Digital Cleanup Dayを創設し、世界各国でデジタル・クリーンアップの取り組みを推進しているLet's Do It World（LDIW）は、Erasmus+ KA220-VET協働パートナーシップの一環として実施されるD-GREEN –中小企業向けデジタルサステナビリティプロジェクト（Digital Sustainability for SMEs）においてイタリアのコンサルティング企業であるASSINDUSTRIA CONSULTING SRLと提携しました。

プロジェクトの実施期間は2025年10月から2027年9月までで、中小企業（SME）を対象に、職業教育・職業訓練を通じてデジタル分野における持続可能性を高めることを目的としています。

LDIWは、デジタルごみ削減や環境教育の分野で培ってきた知見を提供し、Digital Cleanup Dayの実績ある手法をもとに、中小企業向けの研修プログラムにデジタル・サステナビリティの考え方を取り入れていきます。

このプロジェクトでは、「D-GREENハンドブック」や「D-GREEN MOOC（オンライン研修プログラム）」を開発します。これらは、職業教育の指導者や中小企業が、自らのデジタル・フットプリント（デジタル活動による環境負荷）を減らし、より持続可能なデジタル活用を進めるための実践的なツールとなることを目指しています。

LDIWの世界で展開してきたデジタル・クリーンアップの取り組みと、ヨーロッパの職業教育ネットワークの連携は、環境運動が教育を通じて企業の取り組みにも影響を与えることができることを実証しました。

アジア・リーダーズ・アカデミー 2025

Let's Do It Worldアジア地域のリーダーズ・アカデミー2025は、シンガポールで開催され、21か国から44名の環境リーダーが参加しました。本プログラムは、エストニア国立市民社会財団の支援を受けて実施され、チュン・フイ・LDIWシンガポール・リーダー、アウグスティナ・イスカンダル・アジア地域ディレクター、そしてヘイディ・ソルバ・LDIW代表兼CEOのリーダーシップのもと運営されました。

シバ・シンガポール大学教授は、1968年以来シンガポールが世界でも有数の清潔な都市へと変革してきた歩みについて、体系的な取り組みの視点から講演を行いました。また、クリスティナ・リュウ博士は、公衆衛生を支える基盤としての「衛生」と「廃棄物管理」の密接な関係について解説しました。アカデミーでは終日、各国リーダーによる成功事例や感動的なエピソードなどの共有が行われました。続くワークショップでは、世界人口の5%の参加を目標とする「Strive for Five」キャンペーンや、繊維廃棄物に関する取り組みについて、参加型のディスカッションが実施されました。プログラムの締めくくりとして、参加者は日の出とともにシンガポールの川沿いでマングローブ周辺のクリーンアップ活動を実施しました。これは、環境リーダーシップが戦略的な知識だけでなく、実践的な行動によって支えられていることを象徴する取り組みとなりました。

次回のアジア・リーダーズ・アカデミーは、ヤメーン・アダム氏率いるLet's Do It モルディブチームが主催し、2026年に開催される予定です。こうした取り組みは、各国の活動を地域全体の連携へと発展させ、より大きな環境行動へとつなげていきます。

さらに詳しくは： Asia Leaders Academy 2025 in Singapore: Action, Connection, and Inspiration

ウクライナ、キーウ市での World Cleanup Day

Let's Do It Worldは、World Cleanup Day 2025の世界向けコールメディアセンター、そしてライブ配信の拠点を、ウクライナの首都キーウに設置するという、戦略的かつ強い意思を示す決断をしました。これは、「戦争という最も厳しい状況の中でも、人々が力を合わせて環境を守る行動は、社会を変え、コミュニティを再生する力になる」というメッセージでもあります。

現在、世界では60以上の紛争が続いており、それによって深刻な環境破壊が起きています。ウクライナだけで、2022年2月以降の環境被害総額は560億ドル以上にのぼっています。2024年には約96万5千ヘクタールの森林が火災で焼失し、土壌の40%が汚染され、排出された温室効果ガスはCO_2換算で2億3千万トン以上に達しました。

Let's Do It Worldは、戦争の被害を受けているすべての地域の人々と連帯しています。戦争はいつか終わりますが、環境へのダメージは何世代にもわたって残ります。紛争が終わった後、地域社会は土地や環境、そして人と人とのつながりを、みんなの力で立て直していかなければなりません。

World Cleanup Dayには、環境を回復させるだけでなく、戦争などで心に傷を負った人々を癒やす力もあります。人々が一緒に地面を整え、川をきれいにする活動をすることで、互いへの信頼が生まれ、困難に立ち向かう力が育ち、新しい「共に生きる関係」が生まれます。つまり、平和は行動から始まるということです。

昨年は、戦闘が続く中でも40万人以上のウクライナ市民がWorld Cleanup Dayに参加しました。この驚くべき強さと行動力が、キーウをグローバル配信の拠点に選ぶ決断につながりました。

World Cleanup Day 2025では、紛争地域を含む190以上の国と地域からボランティアが参加しました。彼らは共に環境の回復に取り組み、「環境を守ること」と「平和を築くこと」は深くつながっていること、そして人間の希望と強さは暴力によって消し去ることはできないということを示しました。

記事すべてはこちらから： Why LDIW Leadership Chose Kyiv as the Global Hub and World Cleanup Day 2025 Becomes a Symbol of Solidarity and Resilience

ウクライナ・キーウ市 WCD コール＆メディアセンター

2025年9月20日、ウクライナは初めてWorld Cleanup Dayの世界的な中心地となりました。Let's Do It WorldとLet's Do It ウクライナは、首都キーウ市にライブ配信スタジオを備えたコール＆メディアセンターを設置し、戦争が続く中、世界190か国の活動をつなぐ調整拠点としました。

ウクライナ各地から集まった100人以上のボランティアが、メディア対応、報道、コールセンター業務などを担当しました。英語・スペイン語・フランス語でのインタビューも行われ、最年少のインタビュアーはわずか9歳でした。さらに、SNSを常にチェックしながら、世界各地で行われているクリーンアップ活動のニュースを国際的な視聴者へ届けました。

ライブ配信では、ロベルタ・メツォラ欧州議会議長や、マルグス・ツァフクナエストニア外務大臣からのメッセージが紹介されました。その後、30か国以上のコーディネーターへのインタビューや、中国、オーストラリア、インドネシア、バングラデシュ、ラトビア、フランス、タンザニア、ブラジルなど世界各国からの活動映像が紹介され、環境保全に向けた国際的な連帯が示されました。

最大の課題は、戦時下で国際的なライブ配信を実施することでした。日々の危険や夜間外出禁止令のため、夜の準備作業はできません。調整センターはi+Hubの地下施設で行われ、ボランティアの中にはキーウに到着するまで20時間以上かけて移動した人もいました。彼らは防空シェルターで作業し、ときには地下鉄の駅で寝泊まりしながらも、厳しい安全対策を守りつつ活動を続けました。

このライブ配信は、エストニアのテレビ技術チームであるMartin Grandが中心となって運営され、キーウのテレビ局と連携して街頭からの生中継も行われました。司会はウクライナのデニス・ソコロフスキーとヘイディ・ソルバ、そしてバチカンにいるコルム・フリンが担当し、世界各大陸との中継をつなぎました。また、安全な作業環境を提供したi+Hubや、国際チームの食事を支えたレストラン・ハルシュカの協力によって、この大規模な配信は支えられました。

戦時下にもかかわらず、この前例のない世界同時配信を成功させたウクライナの姿は、国際的な連帯の象徴となりました。困難な状況の中でも、環境のために共に行う行動が国境を越えて人々を結びつけ、世界に希望と変化をもたらすことを示したのです。

詳しくはこちらをご覧ください： WCD 2025 Broadcasting from Ukraine: Uniting the World

また、すべての配信アーカイブは World Cleanup DayのYouTubeチャンネルでご覧いただけます。ぜひ軽くおやつでも用意して、ゆっくりとお楽しみください。

ひとつの世界、ひとつの呼吸

Let's Do It World は、シンガポールのエストニアン・ビジネスハブにおいて「One World, One Breath（ひとつの世界、ひとつの呼吸）」セッションを開催しました。このセッションには、ビジネスリーダー、フィランソロピスト（社会貢献活動家）、そして環境意識の高い企業が集まり、内面的な変化と環境行動のつながりについて考えました。これは、世界人口の5%を環境行動に巻き込むことを目指す Strive for Five キャンペーンの一環として実施されたものです。

冒頭では、エストニア共和国のプリート・トゥルク駐シンガポール・インドネシア・ASEAN大使と、ヘイディ・ソルバLet's Do It World代表兼CEOが歓迎の挨拶を行いました。続いて、ペイ・チャンCFA、Inmispace創設者・CEOが、約30分間の没入型ブレスワーク（呼吸法）ワークショップを実施し、意識して呼吸することが環境行動を導くリーダーシップのツールとなり得ることを紹介しました。

このアプローチは、リーダーが心身のバランスを整えて意思決定を行うことで、短期的な対処ではなく、持続可能な解決策を生み出すことができるという考え方に基づいています。つまり、単なるクリーンアップ活動にとどまらず、地球環境問題の根本原因に向き合う行動へとつなげることを目指しています。セッションでは、企業のリーダーや投資家、サステナビリティ推進者、パートナー団体などが交流し、社会全体の変革を進めるための新たな協力関係を築く機会にもなりました。

このイベントは、駐シンガポールエストニア共和国大使館、エストニアビジネスハブシンガポール、Inmispace Private Limited、スィーム・セイナス氏、メリリン・クスキュラ（Let's Do It World）、そしてエストニア国立市民財団の協力により実現しました。

さらに詳しくは： One World, One Breath Session, where Inner Transformation Met Planetary Purpose

LDIWとゼロ・ウェイスト財団（Zero Waste Foundation）

2025年10月17日から19日にかけてトルコ・イスタンブールで開催された国際ゼロ・ウェイストフォーラムには、108か国から多くの参加者が集まりました。この場で、ゼロ・ウェイスト財団は、世界211の国と地域で1億3,900万人以上のボランティアを動員してきた環境運動であるLet's Do It Worldと覚書を交わしました。Let’s Do It Worldからは、ルアン・ハサナジ・ヨーロッパ地域ディレクターとパル・マルテンソン・ディレクターが出席しました。

このパートナーシップにより、両団体は共同キャンペーンの実施、研修プログラムの共有、国際イベントの連携開催、資源調達や政策提言の協力などを進めていきます。また、ゼロ・ウェイスト財団は2026年半ばまでにヨーロッパの一部の国で共同パイロットプログラムを開始する予定です。さらに、優れた事例や実践ツールを共有するオンライン・ナレッジハブの構築、2027年からは加盟国を持ち回りで開催する年次ゼロ・ウェイスト・リーダーシップ・サミットの開催、そしてWorld Cleanup Dayと連動した世界規模のキャンペーンの実施などが計画されています。

この連携は、ゼロ・ウェイスト政策や制度づくりを進めるゼロ・ウェイスト財団の取り組みと、世界211か国にわたる草の根運動で市民を動員する力を持つLet's Do It Worldのネットワークを組み合わせるものです。両団体は、政府、企業、市民社会、そして市民一人ひとりを結びつけながら、ごみのない社会の実現に向けた国際的な取り組みを進めていきます。

さらに詳しくは：LDIW and Zero Waste Foundation Join Forces for a Waste-Free Future

COP30でのLimpa Brasil

2025年11月10日から21日にかけて、ブラジル・ベレンで開催されたCOP30において、Instituto Limpa BrasilはLet's Do It Worldを代表して参加し、幅広いプログラムを実施しました。主な取り組みとして、「Less Waste, Better Climate（ごみを減らし、よりよい気候へ）」キャンペーンや、若者の参加を促す「My Future, My Voice（未来に向けて声をあげよう）」プロジェクト、さらに11月15日に行われた「COP30クリーンアップ・アクション」では、ブラジル各地のコミュニティを巻き込んだクリーンアップ活動が展開されました。

会議期間中には、ブラジル政府がプラスチック・フリー・オーシャン国家戦略（ENOP・プラスチックのない海を目指す国家戦略）を発表しました。この戦略では、2030年までに海洋汚染を削減するための重要な施策の一つとして、World Cleanup Dayが正式に位置づけられました。これは、市民による協働の取り組みが環境政策として認められた歴史的な出来事といえます。

またInstituto Limpa Brasilは、ブラジルのSDGs、ESG（環境・社会・ガバナンスを考慮した経営）の理念、そして国が掲げる温室効果ガス削減目標（NDC）とも連動して、COP30のフリーゾーン、グリーンゾーン、ブルーゾーンの各会場で、講演会やワークショップ、文化イベント、そして写真展「クリーンブラジル2025」を企画・運営しました。

この取り組みは、2025年9月20日に開催されたWorld Cleanup Day 2025の成果をさらに発展させたものです。当日、ベレンではパラー州最大級の環境活動が実施され、学生、行政機関、パートナー団体など10万人以上が参加しました。教育、芸術、そして実践的な行動を組み合わせたこうした取り組みを通じて、Instituto Limpa Brasilは、人々を動かすこと自体が教育であり、その教育が社会全体の変革を生み出す力になることを示しました。そして、それはごみのない持続可能な社会への大きな一歩となっています。

さらに詳しくは： [Limpa Brasil Amplifies LDIW's mission at COP30]

戦略的パートナーシップ

エストニア共和国政府

エストニア共和国政府は、World Cleanup Dayが国連に正式に認められるうえで重要な役割を果たしました。その結果、2024年から毎年9月20日がWorld Cleanup Dayとして恒久的に定められています。また同国政府は、Let's Do It WorldがNGOとして設立されて以来、本部および世界的な活動を支える重要な戦略的パートナーとして関わり続けています。エストニア政府の支援は、外交的な働きかけにとどまりません。外務省によるWorld Cleanup Dayインパクト写真展への支援や、世界各国にあるエストニア大使館を通じた広報活動などにより、ムーブメントの国際的な広がりとその成果を伝える取り組みが行われています。

各国のエストニア大使館が積極的に関与したことは、World Cleanup Dayの認知拡大につながっただけでなく、外交が環境行動を促進する大きな力となり得ることを示しました。地域の草の根活動と国際的な政策提言を結びつける架け橋として、外交の役割が発揮されたのです。このように、国連での公式認定の実現、写真展の支援、そして大使館の積極的な参加といった多面的な支援を通じて、エストニア政府は、各地のクリーンアップ活動を世界規模の環境ガバナンスへと発展させるLet's Do It Worldの取り組みを力強く後押ししています。

REPUBLIC OF ESTONIA
GOVERNMENT

国連ハビタット（国際連合人間居住計画）

Let's Do It Worldは2025年、国連ハビタットと覚書（MoU）を交わし、同機関のネットワークにおけるナレッジ・パートナー（Knowledge Partner）として正式に位置づけられました。この連携は、2019年から続く協力関係を基盤としています。両者は同年9月20日、ノルウェーのトロムソで初めてのWorld Cleanup Day公式記念イベントを共同開催しました。この日は現在、国連の国際デーの公式カレンダーにも登録されています。国連ハビタットが推進する「持続可能な都市とコミュニティ」の取り組みは、廃棄物管理や環境インフラの改善に取り組むLet's Do It Worldの活動と深く結びついています。また、Let's Do It Worldの代表でありグローバルネットワーク責任者であるヘイディ・ソルバは、2020年から国連ハビタットのウェイスト・ワイズ・シティ諮問委員会（Waste Wise Cities Advisory Board/廃棄物賢明都市諮問委員会）のメンバーとして活動しています。

今回のナレッジ・パートナーシップにより、廃棄物管理の新しいアプローチについて、知識共有や関係者の連携がさらに進むことが期待されています。具体的には、循環型経済の考え方や、地域社会の参加を促すコミュニティ・モビライゼーションの手法などに関する知見の交換が進められる予定です。

UN HABITAT
FOR A BETTER URBAN FUTURE

国連SDGs

国連SDGsアクション・キャンペーンは、1,700を超える団体と連携し、広報活動やイベント、さまざまな参加型の取り組みを通じて、世界中の人々が国連SDGs（持続可能な開発目標）の推進に参加できるよう活動しています。Let's Do It Worldは、この取り組みの一つであるAct4SDGs活動において、各団体を結びつける招集パートナーとして参加しています。

LDIWは毎年9月に行われる#Act4SDGsグローバルウィーク期間中にWorld Cleanup Dayを行い、この活動に貢献しています。地域の草の根レベルでの環境保全活動を、SDGsの達成に向けた世界的な取り組みへとつなげています。また、国連SDG アクション・キャンペーンとLet's Do It Worldは、今後の協力の可能性を探るため、定期的に戦略会議を行っています。

さらに2023年には、World Cleanup Dayが世界規模で人々を動員した功績が評価され、国連SDGアクションアワードを受賞しました。

国連環境計画

Let's Do It Worldは、国連環境総会（UNEA）において、オブザーバー参加が認められた認定NGOとしての資格を有しています。この認定により、LDIWはUNEAの会合や議論に参加するとともに、国際的なパートナーと連携しながら、環境の持続可能性に関する取り組みを推進する活動に関わることができます。

欧州連合（EU）

Let's Do It Worldは2025年、欧州気候協定（European Climate Pact）のパートナーとなりました。これは、欧州グリーンディール（European Green Deal）が掲げる「2050年までに気候中立のヨーロッパを実現する」という目標のもとで、廃棄物管理と気候行動を結びつける取り組みです。このパートナーシップにより、LDIWは政策立案者、企業、地域社会と協力し、ごみ問題と気候変動という相互に関係する課題に取り組むことが可能になります。また、クリーンアップ活動などのコミュニティレベルの行動が、単なるごみの回収にとどまらず、地球規模の環境改善につながることを示しています。

このヨーロッパでの活動の一環として、LDIWのWorld Cleanup Dayインパクト写真展が、2025年4月7日に欧州議会で開幕しました。展示では、22か国の事例を紹介し、1日で一斉に行われるクリーンアップ活動が、コミュニティガーデンの整備、リサイクルプログラムの実施、政策の改善など、年間を通じた持続可能なプロジェクトへと発展した様子を伝えます。この写真展は、2025年6月12日にエストニア外務省で初めて開催され、約40万人が来場しました。この後、国連環境総会（UNEA7）や欧州連合（ブリュッセル）など、さまざまな国際会場を巡回する予定です。こうした展示を通じて、草の根の市民行動がどのように社会全体の気候行動へとつながっていくのかを、視覚的に示しています。欧州気候協定との連携と写真展の巡回により、LDIWはヨーロッパの関係者に対し、資源効率の向上や持続可能な廃棄物管理の重要性を発信しています。そして、ごみ削減を気候対策の中心的な要素として位置づけることを目指しています。

ファンディング

この年次報告書では、Let's Do It World本部の資金提供者のみを取り上げます。世界中のほぼすべての国でクリーンアップ活動を実施している Let's Do It Worldの各国チームの活動は、国ごとに異なる資金源によって個別に運営されています。

皆さまのご支援に心より感謝いたします！

企業パートナーシップ

Let's Do It World（LDIW）は、多くのサステナブルな企業と長年 にわたりパートナーシップを築いてきました。以下の皆さまに、心からの感謝を申し上げます。

Vain ja Partnerid OÜのペープ・ヴァイン氏に、寛大な財政支援と、Let's Do It Worldと共に環境活動を推進するためにご尽力いただいたことに、心より感謝いたします。この献身的な支援は、私たちの使命を前進させ、地球のための取り組みに大きな影響をもたらす重要な役割を果たしています。

大切なパートナーである NORQAINは、World Cleanup Day 2024のために限定版ウォッチを発表し、その売上の一部をLet's Do It World本部に寄付してくださいました。2026年も引き続きご協力いただきます。NORQAINのご支援に心より感謝申し上げます。

私たちの法的パートナーであるHedman Law Firmは、Let's Do It World本部の法務問題を支援していただいています。この分野での多大なご支援に、深く感謝いたします。

また、エストニアに拠点を置くMapri EhitusやEuroparkなどの組織にも、Let's Do It World本部への毎年の多大な支援に感謝の意を表します。

Hydroscand Groupには、Let's Do It World本部およびLet's Do It Worldウクライナへの支援をいただき、心より感謝いたします。

Digital Logistics Center of ExcellenceおよびCreative Unionへのサポートに感謝の意を表します。

オンライン・データを監視、分析し、World Cleanup Day実施中にLDIWを支援していただいた、初のオンライン・メディア監視会社である Meltwaterに特別に感謝いたします。

動員パートナー

Let's Do It Worldは、ローカルレベルからグローバルレベルまで、何千ものパートナーと協力して活動しています。その多くは複数の大陸や国にまたがっています。LDIW は、World Cleanup Day や Digital Cleanup Day に社員が参加する取り組みを行っている企業や団体を評価・紹介しています。これにより、実際のごみだけでなくデジタルごみについても環境意識を高めるとともに、人々が主体的に環境活動に参加することを促しています。以下は、いくつかのグローバルパートナーから寄せられたコメントです。

アースデイ・ネットワーク

世界最大級の環境団体である Let's Do It Worldと Earth Day (アースデイ)は、ごみのない世界を目指して協力しています。アースデイの使命は、環境保護活動を多様化し、教育を推進し、世界中で環境運動を活性化することです。この取り組みは、1970年の最初のアースデイに端を発し、現在では earthday.org を通じて、192か国・15万以上のパートナーと連携しながら環境民主主義を推進する、世界最大級の環境団体のひとつとなっています。

現在、世界中で10億人以上が毎年アースデイの活動に参加しており、これは世界最大規模の市民参加型イベントとなっています。4年間にわたり、アースデイ・ネットワークとLet's Do It World は、主力プロジェクトを通じて協力し、廃棄物管理の不備による世界的な危機への意識を高めることを優先課題として取り組んできました。

ワールド・ウェルネス・ウィークエンド（WWW）

ワールド・ウェルネス・ウィークエンド（World Wellness Weekend, WWW）は、160か国以上で活動し、数百万人もの人々に対して、定期的な運動習慣を取り入れることを奨励しています。WWW では、フィットネスクラス、ヨガ、アウトドアアクティビティ、マッサージワークショップなどの無料プログラムを提供し、地域社会をつなげ、新たなウェルネス習慣を紹介することを目的としています。また、各国の政府大臣や地方自治体の首長の積極的な支援を受けて実施されています。

World Cleanup Dayは、直接的にウェルネスを目的としたキャンペーンではありませんが、「クリーンで健全な、ごみのない世界」を最終目標とし、地球とそこに暮らす人々の健康を常に活動の中心に据えています。この2つの取り組みの協力関係は、「真のウェルネス」とは、心と体の内面的な健康だけでなく、私たちを取り巻く外的な環境の健康も含む、という重要な真実を示しています。どちらか一方だけでは成り立たないのです。

World Cleanup Dayへの参加を促し、多くの人々を動員してくださった数千もの組織の皆さまにも、心から感謝申し上げます。

個人寄付者

Let's Do It Worldは、2025年に寄付者コミュニティにご参加いただいた皆さまに深く感謝申し上げます。

Let's Do It World（LDIW）の活動を支える大きな力となっているのが、個人寄付者の皆さまからのご支援です。皆さまから寄せられる寄付は、LDIWが独立性と柔軟性を保ちながら行動するための大切な基盤となっています。多くの機関や組織からの支援には、特定の目的や期間が定められていることがあります。一方で、個人の寄付者の皆さまは、LDIWのビジョンとリーダーシップを信頼し、最も大きなインパクトを生み出せる場所に資源を託してくださっています。そのご支援は、日々の運営を支えるだけでなく、新たな機会への迅速な対応を可能にし、164か国をつなぐ世界的なネットワークが共に行動するための基盤を支えています。

LDIWのミッションに共感し、ご寄付や継続的なご支援を通じて力を貸してくださったすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。皆さまの「草の根の力が世界を変える」という信念こそが、このグローバルな環境ムーブメントを支えています。

ご支援いただいた皆さま：

Alari Aho
Henri Aunin
Claire Fleming
Delphine Guichard
Se-Hyeon Jeong
Silja Kalda
Mari-Liis Keerdi
Krysten Keymer
Tommy Knuts
Olga Kuemin
Kaarel Kukk
Raido Lember
Chingun Munkbold
Maiki Mõtlep
Mari-Liis Müürsepp
Hannah Noseworthy
Maarika Ojakäär
Tatjana Scheel
Merike Sepp
Natalya Siedova
Siim Säinas
Johanna Uus
Rainis Vares

ご支援いただいた団体・企業様：

Mapri Ehitus
Spacevac International
Xcel Bespoke
Haskoning
Griven SRL
SALİH TATLICI VAKFI Foundation

特に、アラリ・アホ（Alari Aho）氏とトミー・クヌーツ（Tommy Knuts）氏の長年にわたる継続的なご支援に、心からの感謝を申し上 げます！ 個人寄付者の皆さまこそ、真のヒーローです。

ありがとう、パートナーの皆さま

Let's Do It Worldは、すべてのパートナーの皆さまに心から感謝申し上げます。
ありがとうございます！

グローバル・パートナー

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS ACTION CAMPAIGN

UNESCO United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization
In partnership with UNESCO

GLOBAL WEEK TO #ACT4SDGs

Clean Seas Turn the tide on Plastic

Good Deeds Day

EARTHDAY.ORG

ACNOA ANOCA

TrashOut

30 YEARS PostEurop

PLANET HEROES

支援パートナー

Republic of Estonia Ministry of the Environment
Republic of Estonia Ministry of Foreign Affairs
hedman law firm
NORQAIN Swiss Made Watches
Haskoning Enhancing Society Together
Gen
Republic of Estonia Government
pipedrive
Tallinn
HYDROSCAND
MEEDIUS
kroonpress
EXPONAUT
KÜSK National Foundation of Civil Society
EuroPark
MAPRI ehitus
PhotoPoint

動員パートナー

ECOLISE European network for community-led initiatives on climate change and sustainability
Global Ecovillage Network
Campaign Nonviolence A Project of Pace e Bene Nonviolence Service
River Cleanup
World Wellness Weekend

Thank You!

Let's do it!

Written & Compiled by Heidi Solba, Sybil Tong and Tamta Keshikashvili